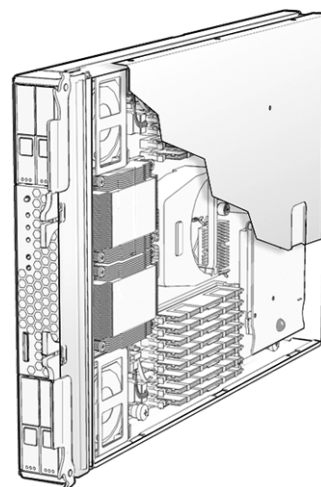


# Sun Blade X6250 サーバー モジュールのオペレーティング システムインストールガイド



Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 820-2413-10  
2007年7月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

この配布物には、サードパーティによる情報が含まれることがあります。

本製品のの一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、Sun Blade は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Cette distribution peut inclure des éléments développés par des tiers.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays sous licence exclusive de X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris et Sun Blade sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに xi

**1. 概要 1**

Sun Blade X6250 サーバーモジュールへの OS のインストール 1

準備すべき事柄 1

決定すべき事柄 2

次の作業 3

**パート I Sun Blade X6250 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド**

**2. Sun Installation Assistant CD の使用 7**

SIA CD について 7

SIA の作業 8

エラーメッセージ 8

ログファイルの確認 8

SIA の使用 9

開始前のご注意 9

▼ SIA CD を使用する 9

## PXE ブート用の SIA の設定 13

- ▼ PXE ブート用に SIA を設定する 13
- ▼ PXE サーバーから SIA をブートする 14

## 3. Red Hat Enterprise Linux のインストール 15

### 開始前のご注意 16

RHEL のインストールと管理ドキュメント 16

追加ソフトウェアアップデートまたはパッチ 17

アップデートされたメディアキットの入手 17

### RHEL の配布メディアからのインストール 18

必要なアイテム 18

- ▼ RHEL をローカルメディアからインストールする 18

### リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール 19

開始前のご注意 19

- ▼ Embedded Lights Out Manager (ELOM) リモートコンソールアプリケーションを使用してインストールする 20

### RHEL PXE インストールのためのネットワーク準備 21

RHEL と PXE について 21

作業マップ 22

RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの  
事前設定 22

必要なアイテム 23

ツールとドライバの CD イメージのダウンロード 23

- ▼ ツールとドライバの CD からファイルをコピーする 23
- ▼ DHCP サーバーを設定する 24
- ▼ DHCP サーバーに Portmap をインストールする 25
- ▼ DHCP サーバー上の TFTP サービスを設定する 25
- ▼ neopxe ブートサーバーデーモンをインストールおよび設定する 26
- ▼ DHCP サーバーに NFS サービスを設定する 27
- ▼ ファイアウォールを無効にする 28

RHEL のネットワークからのインストール	29
PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成	29
開始前のご注意	29
▼ RHEL イメージを PXE サーバーに作成する	30
RHEL のPXE サーバーからのインストール	32
開始前のご注意	32
▼ PXE サーバーから RHEL をインストールする	32
▼ RHEL SCSI ドライバをアップデートする	33
RHEL オペレーティングシステムのアップデート	33
開始前のご注意	33
▼ RHEL ソフトウェアをアップデートする	34
<b>4. PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定</b>	<b>35</b>
RedHat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定	35
必要なアイテム	36
ツールとドライバの CD からのファイルのコピー	36
▼ ツールとドライバの CD からファイルをコピーする	36
DHCP サーバーの設定	37
▼ DHCP サーバーを設定する	37
portmap のインストール	38
▼ portmap をインストールする	38
TFTP サービスの設定	39
▼ TFTP サービスを設定する	39
neopxe ブートサーバーデーモンのインストールと設定	40
▼ neopxe ブートサーバーデーモンをインストールおよび設定する	40
NFS サービスの設定	42
▼ NFS サービスを設定する	42
ファイアウォールの無効化	43

- ▼ ファイアウォールを無効にする 43
- RHEL のネットワークからのインストール 43
- ▼ ネットワークから RHEL をインストールする 44
- SUSE Enterprise Linux サーバーの PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定 44
- 必要なアイテム 45
- ツールとドライバの CD からのファイルのコピー 45
- ▼ ツールとドライバの CD からファイルをコピーする 45
- DHCP サーバーの設定 46
- ▼ DHCP サーバーを設定する 46
- portmap のインストール 47
- ▼ portmap をインストールする 47
- TFTP サービスの設定 48
- ▼ TFTP サービスを設定する 48
- neopxe ブートサーバーデーモンのインストールと設定 48
- ▼ neopxe ブートサーバーデーモンをインストールおよび設定する 48
- NFS サービスの設定 50
- ▼ NFS サービスを設定する 50
- ファイアウォールの無効化 51
- ▼ ファイアウォールを無効にする 51
- 5. SUSE Linux Enterprise Server 10 オペレーティングシステムのインストール 53**
- 開始前のご注意 54
  - SUSE Linux のインストールと設定ドキュメント 54
  - Sun Installation Assistant 55
  - SLES 10 インストール方法 55
- 配布メディアからの SLES 10 のインストール 56
  - 開始前のご注意 56
    - 必要なアイテム 56

▼	配布メディアから SLES 10 をインストールする	56
	リモートコンソールアプリケーションによる SLES 10 OS のインストール	57
▼	リモートコンソールから SLES 10 をインストールする	57
	PXE サーバーでの SLES 10 PXE インストールイメージの作成	58
▼	PXE サーバーで SLES 10 イメージを作成する	59
▼	SLES 10 ソフトウェアをセットアップしてディレクトリにコピーする	59
▼	PXE ファイルをセットアップする	60
	PXE サーバーからの SLES 10 のインストール	60
	開始前のご注意	60
▼	PXE サーバーから SLES 10 をインストールする	61
	SLES 10 オペレーティングシステムのアップデート	61
▼	SLES 10 オペレーティングシステムをアップデートする	61
<b>パート II</b>	<b>Sun Blade X6250 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド</b>	
<b>6.</b>	<b>VMware のインストール</b>	<b>65</b>
	開始前のご注意	66
	VMware ESX Server 3 インストールの作業マップ	66
	VMware のインストールと管理ドキュメント	67
	VMware ESX Server 3 のインストール要件	67
	VMWare ESX Server 3.0.1 ISO イメージのダウンロード	68
▼	VMware ESX Server 3.0.1 ISO イメージをダウンロードする	68
	CD-ROM からの ESX Server 3 のインストール	68
▼	ローカル CD-ROM から ESX Server 3 をインストールする	68
	VMWare ESX Server 3 のアップデート	70

<b>7. Solaris 10 のインストール</b>	<b>71</b>
開始前のご注意	71
最低システム要件	72
その他のソフトウェア情報	72
インストール方法	73
Solaris 10 関連の情報の場所	74
Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ	74
Solaris OS をインストールする準備	75
インストールの前提条件	76
GRUB 環境でのサーバーのブート	77
PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート	77
開始前のご注意	78
▼ PXE を使ってサーバーをネットワーク経由でブートする	78
配布メディアからの Solaris OS のインストール	78
開始前のご注意	79
▼ 配布メディアから Solaris OS をインストールする	79
シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール	80
開始前のご注意	80
▼ シリアルコンソールを使って Solaris OS をインストールする	80
 索引	 83



# 表

---

表 3-1	RHEL の関連ドキュメント	16
表 5-1	SLES 10 インストールのリソース	54
表 7-1	最低システム要件	72
表 7-2	インストール方法	73
表 7-3	Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ	74



# はじめに

---

本書『Sun Blade X6250 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド』では、サーバーを使用できる状態にするまでの手順（オペレーティングシステムのインストールとソフトウェアの初期設定）について説明します。

---

## 製品のアップデート

ダウンロードできる Sun Blade X6250 サーバーモジュール製品のアップデートについては、次の Web サイトのリンクを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/blades/x6250/downloads.jsp>

このサイトでは、ファームウェアとドライバ、および CD-ROM ISO イメージのアップデートが提供されています。

## 関連ドキュメント

Sun Blade X6250 サーバーモジュールのドキュメントセットの説明は、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Solaris™ およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

入手可能なドキュメントを次の表に示します。

情報	タイトルとフォーマット	部品番号
安全についての情報	Sun ハードウェアに関する安全の手引き (システムボックス内)	819-7190
安全についての注意と証明機関による国際準拠ステートメント	安全とコンプライアンスに関するガイド (PDF および HTML)	819-1161
サーバーのセットアップ (ラックへの取り付け、プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの設定など)	<i>Sun Blade X6250</i> サーバーモジュール設置マニュアル (システムボックス内、PDF および HTML)	820-2408
オペレーティングシステムのインストール	<i>Sun Blade X6250</i> サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド (PDF および HTML)	820-2413
システム管理	<i>Embedded Lights Out Manager Administration Guide (Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)</i> (PDF および HTML)	820-1253
トラブルシューティングと診断	Sun Blade X6250 Server Module Diagnostics Guide ( <i>Sun Blade X6250</i> サーバーモジュール診断ガイド) (PDF および HTML)	820-0047

情報	タイトルとフォーマット	部品番号
最新情報と注意事項	Sun Blade X6250 サーバーモジュールご使用にあたって (PDF および HTML)	820-2423
診断ソフトウェア	『SunVTS 6.0 User's Guide (SunVTS 6.0 ユーザーズガイド)』 (HTML)	817-7664
診断ソフトウェアのパッチ情報	『SunVTS 6.0 Patch Set Documentation Supplement for x86 Platforms (x86 プラットフォーム用 SunVTS 6.0 パッチセット補足ドキュメント)』 (HTML)	819-2948

## UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX<sup>®</sup> コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの設定などの手順に関する情報は含まれていないことがあります。このような情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属ソフトウェアのドキュメント
- <http://docs.sun.com> に掲載されている Solaris<sup>™</sup> オペレーティングシステムのドキュメント

## サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

---

## 表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上的コンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上的コンピュータ出力とは区別して示します。	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

\* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade X6250 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド』、部品番号 820-2413-10

## 概要

---

この章では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールにオペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を説明します。The Sun Blade X6250 はさまざまなオペレーティングシステムをサポートしており、各オペレーティングシステムに複数のインストール方法があります。本書では、サポートされている Solaris、Linux、および VMWare オペレーティングシステムのためのインストール手順を説明します。

---

**注** – Windows Server 2003 を Sun Blade X6250 サーバーモジュールにインストールする手順については、『Sun Blade X6250 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-2418) を参照してください。

---

---

## Sun Blade X6250 サーバーモジュールへの OS のインストール

Sun Blade X6250 サーバーモジュールに OS をインストールする前に、準備すべき事柄と決定すべき事柄について理解するために次のセクションを参照してください。

### 準備すべき事柄

次の手順を完了してから、インストールを開始する必要があります。

- サーバーハードウェアを設置します。
- (省略可) サービスプロセッサを設定します
- IP アドレスおよびネットマスクなどの必要な情報を収集します。

- (Linux のみ) ドライブ CD を作成するか、Sun™ Installation Assistant を用意します (推奨)。使用している Linux OS のドキュメントを参照するか、Sun Installation Assistant (SIA) については第 2 章を参照してください。

## 決定すべき事柄

また、次の事項を決める必要があります。

- Sun Blade X6250 サーバーモジュールにインストールするオペレーティングシステムの種類

Solaris オペレーティングシステム	RedHat Enterprise Linux オペレーティングシステム	SUSE Linux Enterprise Server
Sun Blade X6250 サーバーモジュールでは、Solaris 10 11/06 OS がサポートされています。	バージョン 4 U4 以降 (64 ビット) がサポートされています。	バージョン 10 以降 (64 ビット) がサポートされています。

- ディスクレスブートのためのサーバー設定

オペレーティングシステム	ディスクレス設定関連文書
Solaris 10	『Solaris 10 のインストール』(71 ページ)、または『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』( <a href="http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323">http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323</a> ) を参照してください。
RedHat Linux	『RedHat Enterprise Linux System Administration Guide (RedHat Enterprise Linux システム管理ガイド)』( <a href="https://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">https://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a> ) を参照してください。

- インストールする方法

方法	Solaris	RedHat	SLES
ハードディスクにインストール済み	はい	いいえ	いいえ
USB 接続の外部 CD/DVD ドライブを介して、サーバー上の配布メディア (CD/DVD) からインストール	はい	はい	はい
キーボード、ビデオ、およびモニタースイッチ (KVMs) を介して配布メディア (CD/DVD) からインストール	はい	はい	はい
Preboot Execution Environment (PXE) を使用してネットワークからインストール	はい	はい	はい



---

**注** – Sun Blade X6250 サーバモジュールには、業界標準の KVM デバイスを、USB ポートまたは Embedded Lights Out Manager (ELOM) リモートコンソールアプリケーションを使って接続できます。USB 接続をシステムにセットアップする手順は、サーバハードウェアに関するマニュアルを参照してください。ELOM リモートコンソールアプリケーションを使用した、サーバへのリモート KVM 接続設定の詳細については、『*Embedded Lights Out Manager Administration Guide (Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)*』(820-1253) を参照してください。

---

- オペレーティングシステムおよびドライバのアップデートの必要の有無  
通常は、オペレーティングシステムのインストールすると、アップデートが必要になります。アップデートについては、インストールする OS の章を参照してください。

## 次の作業

本書の各章では、インストールについての詳細情報を説明しています。関連手順については、使用している OS に該当する章を本書で参照してください。

また、オペレーティングシステムに関するインストール、管理、および設定に関するドキュメントも揃えておいてください。これらのドキュメントは通常、マニュアル冊子として配布メディアに付属しているか、メディアに PDF ファイルとして含まれています。多くの場合、最新版のドキュメントは、OS バンダーの Web サイトからダウンロードできます。



# パート I Sun Blade X6250 サーバーモジュールの オペレーティングシステムインストール ガイド

---

このパートでは、Linux ベースのオペレーティングシステムおよび関連ユーティリティのインストール方法を説明します。Sun Installation Assistant (SIA) を使ってインストールすることをお勧めします。このパートには、次の章があります。

- [第 2 章、Sun Installation Assistant CD の使用](#)
- [第 3 章、Red Hat Enterprise Linux のインストール](#)
- [第 4 章、PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定](#)
- [第 5 章、SUSE Linux Enterprise Server 10 オペレーティングシステムのインストール](#)



## Sun Installation Assistant CD の使用

---

Sun™ Installation Assistant (SIA) CD により、サポートされている Linux オペレーティングシステム (OS) を Sun Blade X6250 サーバーにインストールできます。この CD から、OS のインストール、システムハードウェアの特定、および品質保証テストに合格した Sun 対応ドライバセットのインストールを行えます。インストール作業を簡便にするために SIA CD を使用することをお勧めします。SIA CD は新しいシステムに同梱されています。

---

### SIA CD について

必ずしも SIA CD を使用する必要はありませんが、この CD を使用した方が Linux を簡単にインストールできます。SIA CD を使用すると、オペレーティングシステム、適切なドライバ、およびソフトウェアのアップデートをシステムにインストールできます。別のドライバ CD を作成する必要はありません。SIA CD は次の方法でブートできます。

- ローカル CD/DVD ドライブから。詳細は、「[SIA の使用](#)」(9 ページ) を参照してください。
- Preboot Execution Environment (PXE) を使用してネットワークから。詳細は、「[PXE ブート用の SIA の設定](#)」(13 ページ) を参照してください。
- Embedded Lights Out Manager (ELOM) のリモートコンソールアプリケーションを使用してリモートの CD/DVD ドライブから。詳細は、「[リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール](#)」(19 ページ) を参照してください。

---

**注** – SIA CD によって、自動的に OS がインストールされるわけではありません。手順に従い、システムのプロンプトに回答し、情報とコマンドを入力する必要がありますが、ドライバ CD を作成する必要はありません。SIA によって、Sun 対応ドライバが自動的にインストールされます

---

## SIA の作業

SIA は、次の作業を実行してインストールをサポートします。

- システム上のハードウェアの識別
- オペレーティングシステムのインストール
- ドライバおよびプラットフォーム固有のソフトウェアの識別とインストール

## エラーメッセージ

SIA にエラーまたは予期しない状態が発生した場合には、エラーメッセージが生成されます。次に、エラーメッセージの例を示します。メッセージはさまざまですが、いずれもわかりやすい内容です。

You have inserted Disc 3 but the system requires Disc 2. Please insert Disc 2.

(Disc 3 を挿入しましたが、システムには Disc 2 が必要です。Disc 2 を挿入してください)

サポートされていない Linux バージョンの SIA を使用した場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

The media you have provided is not a release that is supported by Sun Microsystems, Inc. on this platform. You cannot use the Sun Installation Assistant to install this product and associated software.

(挿入したメディアのリリースは、このプラットフォームの Sun ではサポートしていません。Sun Installation Assistant を使ってこの製品および関連ソフトウェアをインストールできません)

このような場合は、次のいずれかを実行します。

- サポートされた製品をインストールするには、「Back (戻る)」をクリックしてから適切なメディアを挿入してください。
- サポートされていないこの製品をインストールするには、「Exit (終了)」をクリックして SIA を終了してから、システムをリブートします。これで、サポートされていない製品を通常どおりインストールできます。

## ログファイルの確認

SIA のログファイルは、新たにインストールしたシステムの /root ディレクトリに書き込まれます。このログファイルを確認するには、`/root/SunInstallationAssistant.log` ファイルを参照してください。

---

# SIA の使用

ここでは、SIA を使用してサーバーに Linux をインストールする方法を説明します。

SIA は、サーバーモジュールの USB に接続された CD-ROM、CD-ROM のリダイレクトによるリモート KVM、または PXE ネットワークブートのいずれかを使用してブートできます。次の手順は、CD-ROM からのブートについて説明していますが、ネットワークブートを選択する場合に置き換えることができます。

インストールする Linux システムのメディアには、ネットワークイメージまたは CD-ROM のいずれかを使用できます。LAN 上のネットワークイメージからインストールすると、高速でインストールできます。

## 開始前のご注意

SIA ソフトウェアは、次の手順に従ってインストールします。

1. ローカル CD、CD-ROM のリダイレクトによるリモート KVM、または CD 内に含まれるイメージをブートする PXE を使用して SIA をブートします。
2. プロンプトに従って、Linux をインストールするメディアまたはネットワークイメージを入力します。

オペレーティングシステムおよびドライバのアップデート方法についてのセクションを参照してください。

## ▼ SIA CD を使用する

1. サーバーの CD/DVD ドライブに SIA CD を挿入するか、PXE ブートを使用するか、または CD-ROM のリダイレクトによる ELOM リモートコンソール KVM を使用します。

PXE を使用する場合は「[PXE ブート用に SIA を設定する](#)」(13 ページ)を参照してください。ELOM リモートコンソールを使用する場合は「[リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール](#)」(19 ページ)を参照してください。

2. サーバーの電源を入れるか、またはリブートします。

SIA がブートされます。この処理には数分かかることがあります。まず、ソフトウェアライセンス契約の画面が表示されます。

### 3. 契約条件をよく読みます。

ライセンス画面の下までスクロールし、「Accept (同意する)」ラジオボタンを表示します。

- 同意する場合は、「Accept (同意する)」ラジオボタンを選択し、「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。「Next (次へ)」ボタンは、「Accept (同意する)」ラジオボタンを選択した場合のみ使用できます。SIA の「Welcome (ようこそ)」画面が表示されます。
- 同意しない場合は、「Decline (同意しない)」ラジオボタンを選択し、「Exit (終了)」をクリックして SIA を閉じます。システムにはサーバーをリブートするプロンプトが表示されます。

### 4. 「Welcome (ようこそ)」画面で「Next (次へ)」をクリックします。

「Welcome (ようこそ)」画面では、SIA の概要が説明されます。「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

### 5. 「Remote Update (リモートアップデート)」画面でアップデートを確認して、「Next (次へ)」をクリックします。

SIA では、アップデートをダウンロードして、新しいドライバを有効にしたり、問題を修正したりできます。この機能を無効にする場合は、「Remote Update (リモートアップデート)」画面で「No (いいえ)」をクリックします。

### 6. リモートアップデートにより、利用可能なアップデートの有無が確認され、アップデート対象のアイテムのリストが表示されます。「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

リモートアップデートプロセスでアップデートの有無が確認され、利用可能なアイテムが表示されます。アップデートされたコンポーネントが必要な場合は、該当するコンポーネントがダウンロードされます。

### 7. システムが識別されます。

ハードウェア、プロセッサ、およびシステムの合計メモリーが識別されます。「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

### 8. SCSI デバイスがスキャンされます。

オプションカードがあるかどうかを識別され、SCSI ディスクがスキャンされ、結果が表示されます。Sun Installation Assistant は、自動的に次の画面に進みます。

### 9. 前の画面 (手順 5) で「Remote Update (リモートアップデート)」を選択した場合は、ネットワークを有効にする必要があります。

a. アクティブなネットワークインタフェースを選択します (例: eth0)。

b. 設定方法を選択します (DHCP または静的)。

静的な方法を選択した場合は、必要な情報 (IP アドレス、ゲートウェイ、ネットマスクなど) を入力します。



- c. `sia-updates.sun.com` など外部サイトへのアクセスに HTTP プロキシが必要な場合は、プロキシ情報を入力します。

HTTP または FTP のインストールイメージを使用する場合は、「Yes (はい)」を選択して Ethernet インターフェイスを表示し、該当するネットワークインストールイメージにアクセスします。CD-ROM からインストールする場合は「No (いいえ)」を選択します。「No (いいえ)」を選択した場合は手順 10 に進みます。

---

**注** – FTP を選択した場合は、サーバーで匿名 FTP がサポートされている必要があります。匿名 FTP では、ISO インストールイメージを解凍したディレクトリにアクセスできることが条件になります。

---

- d. 「Next (次へ)」をクリックします。

リモートアップデートプロセスで利用可能なアップデートの有無が確認され、リストが表示されます。アップデートされたコンポーネントは、必要に応じてダウンロードされます。「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

#### 10. インストール方法を選択します。

Linux ディストリビューションのインストール方法 (CD、HTTP、または FTP) を選択します。ネットワークがまだ有効ではない状態で HTTP または FTP を選択すると、ネットワークを有効にするプロンプトが表示されます。

#### 11. インストールメディアを指定します。

- HTTP または FTP からインストールする場合

インストール元のネットワークイメージの URL を指定するプロンプトが表示されます。次に例を示します。

```
http://host.name/path/to/install/image
http://ip.address/path/to/install/image
nfs://host.name/path/to/install/image
nfs://ip.address/path/to/install/image
ftp://host.name/path/to/install/image
ftp://ip.address/path/to/install/image
```

- CD からインストールする場合

インストールが完了すると、SIA により Linux OS カーネル用の RPM と、インストール時に検出されたオプションカードがインストールされます。その後 SIA CD が押し出され、サポートされる Linux ディストリビューションのリストが表示されます。このリストは、サーバーハードウェアに固有のものであります。

Sun Blade X6250 サーバーモジュールには、次の Linux ディストリビューションをインストールできます。

---

#### サポートされているディストリビューション

---

Red Hat Linux 4 Update 4 (64 ビット)

SLES 10 (64 ビット)

---

12. サーバーの CD/DVD ドライブに、サポートされているディストリビューションのいずれかのディスク 1 を挿入します。

---

**注** – SIA をブートした CD-ROM に OS CD を挿入する必要があります。

---

13. 「Next (次へ)」 をクリックします。

Linux ディストリビューションが識別されます。次に例を示します。

```
Identifying distribution... identified as Red Hat Enterprise Linux X  
- 64bit.
```

(ディストリビューションの識別中... Red Hat Enterprise Linux X - 64 ビットと識別されました。)

---

**注** – サポートされていないメディアを挿入すると、エラーメッセージが表示されます。

---

サポートされているオプションカードがシステムに存在し、OS にそのカードに必要なドライバが含まれていない場合は、そのカードに対応するドライバは SIA によりインストールされます。

14. 「Next (次へ)」 をクリックすると、このディストリビューションのインストーラが起動します。

インストール中の Linux バージョンのインストールソフトウェアに切り替わります。

15. インストーラ画面の指示に従います。

サポートされているオプションカードがシステムに存在し、OS にそのカードに必要なドライバが含まれていない場合は、Sun Installation Assistant がそのカードに対応するドライバをインストールします。

16. インストールが完了すると、SIA により、Linux OS カーネル用の RPM と、インストール時に検出されたオプションカードがインストールされます。

該当する Linux OS カーネルの RPM のみがインストールされます。

17. 適切なソフトウェアがインストールされたか確認します。

最後に、インストールされる追加ソフトウェアが識別されます。次に例を示します。

```
The RedHat Enterprise Linux 4 U4 - 64bit installation has completed.  
(RedHat Enterprise Linux 4 U4 - 64 ビットのインストールが完了しました。)
```

```
Installing Sun Blade X6250 drivers... completed.
```

(Sun Blade X6250 ドライバをインストールしています...完了)

```
The installation has completed. (インストールが完了しました)
```

18. 「Reboot (リブート)」 をクリックして、新しい OS がインストールされたサーバーをリブートします。

---

# PXE ブート用の SIA の設定

ここでは、Preboot Execution Environment (PXE) を設定して、サーバーに SIA をブートする方法について説明します。

---

**注** – このセクションでは、ユーザーがすでに PXE ブートサーバーの設定を理解していることを前提としています。次の情報は、既存の PXE ブートサーバーに SIA のブートターゲットを追加するためのものです。

---

## ▼ PXE ブート用に SIA を設定する

1. 「[PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定](#)」(35 ページ) の説明に従って、PXE をサポートするようにネットワークの事前設定を行います。
2. PXE Linux ディレクトリに、SIA イメージを保存するサブディレクトリを作成します。

```
# mkdir /home/pxeboot/suninstall
```
3. PXE サーバーの CD ドライブに SIA CD を挿入して CD をマウントします。
4. CD から `vmlinuz` および `initrd` ファイルを PXE Linux ディレクトリにコピーします。マウントされる CD イメージには正しいパスを使用してください。この例では、`/mnt/cdrom` を使用します。

```
# cp /mnt/cdrom/boot/isolinux/vmlinuz /home/pxeboot/suninstall
# cp /mnt/cdrom/boot/isolinux/initrd.img /home/pxeboot/suninstall
```
5. SIA を PXE 設定ファイルに追加します。次の行を `/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` に入力します。

---

**注** – `append` から `netboot` までのテキストブロックは、改行なしの連続する文字列として入力してください。

---

```
default suninstall
label suninstall
kernel suninstall/vmlinuz
append initrd=suninstall/initrd.img vga=0x314 ramdisk_size=
400000 root=/dev/ram netboot
```

6. CD のマウントを解除して取り出します。

## ▼ PXE サーバーから SIA をブートする

1. Sun Blade X6250 サーバーモジュールを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、サーバーの電源を入れます。
2. ネットワークブートの初期化中に、システムで F12 キーを押します。システムでは、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。
3. F8 キーを押して、PXE ブートイメージのダウンロードを開始します。
4. boot: プロンプトが表示されたら、**suninstall** と入力します。
5. SIA イメージがシステムにダウンロードされます。「[SIA の使用](#)」(9 ページ) の手順に従って、インストールを続行できます。

## Red Hat Enterprise Linux のインストール

---

この章では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムをインストールする手順を説明します。RHEL ソフトウェアを他の Intel サーバーにインストールしたことがある場合は、Sun Blade X6250 サーバーモジュールにも同様の方法でインストールできます。この章で詳しく説明するのは、次の 3 つの場合にサーバーに RHEL OS をインストールする方法です。

- ローカル CD-ROM 内の RHEL 配布 CD からインストールする
- ELOM のリモートコンソールアプリケーションを使用してアクセスするリモート CD-ROM 内の RHEL 配布 CD からインストールする
- ローカルネットワーク上の PXE サーバーに格納された Preboot Execution Environment (PXE) イメージ、またはネットワーク上に格納されたその他イメージからインストールする

この章には次のセクションがあります。

- 「開始前のご注意」 (16 ページ)
- 「RHEL の配布メディアからのインストール」 (18 ページ)
- 「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」 (33 ページ)
- 「リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール」 (19 ページ)
- 「RHEL PXE インストールのための ネットワーク準備」 (21 ページ)
- 「RHEL のネットワークからのインストール」 (29 ページ)

---

## 開始前のご注意

---

**注** – Sun Installation Assistant (SIA) は、サーバーに RHEL をインストールする際に役立つ、便利なフロントエンドアプリケーションです。RHEL に付属している標準インストールユーティリティと手順を補足するもので、それに代わるものではありません。詳細は、[第 2 章](#)を参照してください。

---

このセクションでは、RHEL 用の参照情報を説明します。

## RHEL のインストールと管理ドキュメント

RHEL ソフトウェアを Sun Blade X6250 サーバーモジュールにインストールする前に、次の RHEL のマニュアルを参照してください。

表 3-1 RHEL の関連ドキュメント

ドキュメント名	説明	入手場所
README ファイル	ご使用の RHEL ソフトウェアバージョンのシステム要件およびシステム設定についての最新情報が含まれています。	RHEL CD1、および次のサイトから取得できます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/">http://www.redhat.com/docs/</a>
RedHat Enterprise Linux Quick Installation Guide (RedHat Enterprise Linux クイックインストールガイド)	RHEL のインストールに役立つ情報を含む簡易ガイドの印刷版です。	RHEL 配布メディアに含まれています。
RedHat Enterprise Linux インストールガイド	印刷版クイックインストールガイドの完全版です。	Red Hat ドキュメント CD、および次のサイトから取得できます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>
RedHat Enterprise Linux システム管理入門ガイド	RHEL システム管理者のための入門情報です。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a>

表 3-1 RHEL の関連ドキュメント (続き)

ドキュメント名	説明	入手場所
RedHat Enterprise Linux System Administration Guide (RedHat Enterprise Linux システム管理ガイド)	RHEL ソフトウェアをカスタマイズするための情報です。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a>
System Administration for Diskless Booting (ディスクレスブートのシステム管理)	サーバーと RedHat Linux をディスクレスでブートするための設定情報です。	<a href="http://www.jp.redhat.com/support/doc/">http://www.jp.redhat.com/support/doc/</a> から『x86、Itanium™、及び AMD64 アーキテクチャ用インストールガイド』をダウンロードできます。
RedHat Enterprise Linux セキュリティガイド	RHEL ソフトウェアのセキュリティに関するガイドです。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a>

## 追加ソフトウェアアップデートまたはパッチ

サーバーに RHEL ソフトウェアをインストール後に、パッチとパッケージを使用して、システムソフトウェアを適宜アップデートする必要があります。詳細は、[「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」\(33 ページ\)](#) を参照してください。

## アップデートされたメディアキットの入手

Sun Blade X6250 サーバーモジュールに RHEL のアップデートをインストールするには、RHEL 4 Update メディアキットを入手する必要があります。

このキットは、<http://rhn.redhat.com> からダウンロードします。

この Web サイトに企業アカウント情報を使ってログインし、アップデートされた .iso イメージをダウンロードします。企業アカウントとは、RHEL メディアキットを購入後に RedHat のサポートネットワークにアクセスするときに、顧客自身が作成するアカウントです。

---

# RHEL の配布メディアからのインストール

RHEL には、オペレーティングシステムをインストールおよび設定するために、テキストモード、および使いやすいグラフィカルインタフェースが用意されています。boot プロンプトで、使用するインタフェースを選択できます。このセクションでは、両方のオプションについて説明します。

CD から RHEL ソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。

1. <http://rhn.redhat.com> からアップデートされたメディアキットをダウンロードします。  
「[アップデートされたメディアキットの入手](#)」(17 ページ) を参照してください。
2. RHEL ソフトウェアをインストールします。
3. RHEL ソフトウェアをアップデートします。  
「[RHEL オペレーティングシステムのアップデート](#)」(33 ページ) を参照してください。

## 必要なアイテム

配布メディアからインストールするには、次のアイテムが必要です。

- 次のデバイスが搭載された Sun Blade X6250 サーバーモジュール
  - USB で接続したキーボードとマウス
  - USB CD/DVD
  - モニター
  - Sun Blade X6250 サーバーモジュールの前面スロットに差し込むドングルコネクタ 詳細は『Sun Blade X6250 サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。
- RHEL メディア CD セット

## ▼ RHEL をローカルメディアからインストールする

1. ドングルの USB ポートに USB CD/DVD ドライブを接続します。
2. システムの電源を入れます。



3. Sun Blade X6250 サーバーモジュールに接続された DVD/CD ドライブに RHEL 配布 CD1 を挿入します。  
サーバーが CD から起動し、boot: プロンプトが表示されます。
4. boot プロンプトで、次のいずれかを選択します。
  - テキストモードの場合は、次のコマンドを入力します。
  - boot: **linux text**
  - グラフィカルモードを使用する場合は、Enter キーを押します。
5. これ以降のインストール作業については、『RedHat Enterprise Linux インストールガイド』を参照してください。
6. 「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」(33 ページ)に進みます。
7. SCSI ドライバをアップデートします。  
「RHEL SCSI ドライバをアップデートする」(33 ページ)を参照してください。  
挿入した CD がインストール中に認識されない場合は、『Sun Blade X6250 サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。

---

## リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール

このセクションでは、Embedded Lights Out Manager (ELOM) リモートコンソールアプリケーションを使用して、サーバーに RHEL オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

ELOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、RHEL 4 U4 以降の OS をインストールするには、次の手順に従います。

### 開始前のご注意

次の手順を実行する前に、『*Embedded Lights Out Manager Administration Guide* (Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)』をお読みください。本書では、ELOM サービスプロセッサの WebGUI を使用してコンソールをリダイレクトする方法を詳しく説明します。

## ▼ Embedded Lights Out Manager (ELOM)

### リモートコンソールアプリケーションを使用してインストールする

1. RHEL のインストール CD/DVD を用意するか、これに相当する iso イメージを検索します。
2. ELOM サービスプロセッサの WebGUI に接続します。
3. 「Remote Control (リモートコントロール)」 タブ、「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」 タブの順にクリックします。
4. 必要に応じて、マウスモードを「Relative (相対)」モードに変更します。  
詳細は、『*Embedded Lights Out Manager Administration Guide (Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)*』の「Remote Console Application (リモートコンソールアプリケーション)」を参照してください。
5. 「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
6. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックして、JavaRConsole アプリケーションを起動します。
7. JavaRConsole にログインします。
8. キーボードおよびマウスのリダイレクトを開始します。  
「Devices (デバイス)」メニューの「Keyboard and Mouse (キーボードとマウス)」を選択します。
9. CD/DVD のリダイレクトを開始します。  
JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニューから CD をリダイレクトする方法は、次の 2 とおりあります。
  - リモートコンソールの CD-ROM ドライブに実際に CD を挿入する場合は、ドライブに CD を挿入し、「CD-ROM」を選択します。
  - リモートコンソールにインストールされている iso イメージを使用する場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択し、iso ファイルの場所を指定します。

---

**注** – JavaRConsole から、フロッピーディスクのリダイレクトも行うことができます。詳細は、『*Embedded Lights Out Manager Administration Guide (Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)*』を参照してください。

---

10. ELOM WebGUI からサーバーの電源を入れます。

11. 次のように BIOS セットアップを行います。
  - a. Ctrl-E キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
  - b. 「Boot (ブート)」メニューを選択します。
  - c. 「CD/DVD Drives (CD/DVD ドライブ)」を選択します。
  - d. 「AMI Virtual CD (AMI 仮想 CD)」を第 1 ブートデバイスに設定します。
  - e. F10 キーを押して変更を保存し、終了します。
  - f. リブートします。
  - g. CTRL-P キーを押して、ブートデバイスとして CD/DVD を選択します。
12. boot プロンプトが表示されたら、`linux text` と入力します。
13. インストール前に CD メディアをテストするプロンプトが表示されたら、メディアのテストを実行しない場合は「Skip (スキップ)」を選択します。
14. これ以降のインストール作業については、『RedHat Enterprise Linux インストールガイド』を参照してください。

---

## RHEL PXE インストールのための ネットワーク準備

### RHEL と PXE について

Sun Blade X6250 サーバーモジュールのオンボードネットワークインタフェースカード (NIC) は、ネットワークブートプロトコルである Preboot Execution Environment (PXE) をサポートしています。システム BIOS やネットワークインタフェース BIOS は、ネットワークに DHCP サーバーがあるかどうか自動的に問い合わせます。ネットワークで該当する DHCP サーバーがすでに設定され、PXE プロトコルおよび PXE イメージサーバーを使用できる場合は、システム BIOS によって、ブート可能な RHEL イメージがサーバーにインストールされます。

---

**注** – PXE は、多数の Sun Blade X6250 サーバーモジュールが同じ設定になるようにセットアップできる強力で便利なソリューションです。

---

## 作業マップ

ネットワーク上の PXE を使用して RHEL を設定するには、次の作業を実行します。

タスク	関連セクション
http://rhn.redhat.com からアップデートされたメディアキットをダウンロードします。	<a href="#">「アップデートされたメディアキットの入手」</a> (17 ページ)
Linux ネットワークと PXE サーバーをセットアップします。	<a href="#">「RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」</a> (22 ページ)
PXE サーバーに RHEL イメージをインストールします。	<a href="#">「PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成」</a> (29 ページ)
サーバーを設定して PXE サーバーの RHEL イメージからインストールします。	<a href="#">「RHEL の PXE サーバーからのインストール」</a> (32 ページ)

## RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定

このセクションでは、PXE を使ってサーバーに RHEL ソフトウェアをインストールする場合に、ネットワークを事前設定する方法を説明します。ここでは、ブート可能なサーバーで RHEL オペレーティングシステムの 1 つのバージョンが PXE サーバーとして動作していることを想定しています。

PXE インストールのためにネットワークを事前設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- ツールとドライバの CD からのファイルのコピー
- DHCP サーバーの設定
- portmap のインストール
- TFTP サービスの設定
- neopxe ブートサーバーデーモンのインストールと設定
- NFS サービスの設定
- ファイアウォールの無効化

## 必要なアイテム

PXE インストールのためにネットワークを事前設定するには、次のアイテムが必要です。

- 次のデバイスを搭載した RHEL サーバー
  - 前面のドングルポートを介してサーバーモジュールに接続された USB CD/DVD ドライブ
  - USB で接続したキーボード
  - モニター
- RHEL メディアセット
- ツールとドライバの CD

## ツールとドライバの CD イメージのダウンロード

ツールとドライバの CD にアクセスできない場合は、次の URL から ISO イメージをダウンロードできます。

<http://www.sun.com/servers/blades/x6200/downloads.jsp>

ダウンロードサイトからダウンロードしたイメージから独自の CD を作成する場合は、ここで説明するツールとドライバの CD の代わりに、その CD を使用します。

## ▼ ツールとドライバの CD からファイルをコピーする

このセクションでは、PXE の設定に必要な PXE サポートファイルを、ツールとドライバの CD からコピーする方法を説明します。この例では、RHEL 4 U4 を使用しています。使用するアップデートに応じて、`rhel4u4` の部分を適切なファイル名に置き換えてください。

1. DHCP/PXE サーバーにツールとドライバの CD を挿入します。
2. `/tmp` がない場合は、次のコマンドを入力して、PXE サポートファイルを保存する一時ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /tmp
```
3. 次のコマンドを入力して、ファイルを `/tmp/` ディレクトリにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp /mnt/cdrom/Linux/pxe/rhel4u4-pxefiles.tar.gz /tmp/
```

4. 次のコマンドを入力して、tar ファイルの内容を /tmp/ ディレクトリに解凍します。

```
# cd /tmp
# tar -zxvf rhel4u4-pxefiles.tar.gz
```

ファイルが解凍されると、必要なファイルをすべて含むディレクトリが /tmp/rhel4u4-pxefiles/ に生成されます。

## ▼ DHCP サーバーを設定する

DHCP サーバーとして使用するサーバー上で、次の手順を実行します。

1. サーバーに電源を入れ、スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します

```
# rpm -qa | grep dhcp-
```

3. DHCP サーバーパッケージが一覧表示されない場合は、RHEL CD 5 を挿入し、次のコマンドを入力して DHCP サーバーをインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/dhcp-*.rpm
```

4. 次のコマンドを入力して CD-ROM ドライブのマウントを解除します。
5. ドライブから CD を取り出します。
6. PXEClient 要求だけが PXEClient 応答を受信するように、DHCP 設定ファイル (/etc/dhcpd.conf など) を設定します。

次のエントリを DHCP 設定ファイルに追加します。詳細は、dhcpd.conf のマニュアルページを参照してください。

```
class "PXE" {match if substring(option vendor-class-identifier, 0, 9)
="PXEClient"; option vendor-class-identifier "PXEClient"; }
```

---

**注** – サーバーの /etc ディレクトリに dhcpd.conf ファイルがまだない場合は、/tmp/rhel4u4-pxefiles ディレクトリのサンプル DHCP 設定ファイルから dhcpd.conf ファイルをコピーできます。

---

7. 次のコマンドを入力して DHCP サーバーを起動します。
8. 次のコマンドを入力して、サーバーが常に DHCP を起動するように設定します。

```
# service dhcpd start
# chkconfig dhcpd on
```

## ▼ DHCP サーバーに Portmap をインストールする

1. 次のコマンドを入力して、portmap サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。  

```
# rpm -qa | grep portmap
```
2. portmap が一覧表示されない場合は、RHEL CD 2 を挿入し、次のコマンドを入力して portmap サービスをインストールします。  

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom  
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/portmap-*
```
3. 次のコマンドを入力して CD-ROM ドライブのマウントを解除します。  

```
# umount /mnt/cdrom
```
4. ドライブから CD を取り出します。

## ▼ DHCP サーバー上の TFTP サービスを設定する

1. 次のコマンドを入力して、TFTP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。  

```
# rpm -qa | grep tftp-server
```
2. TFTP サーバーパッケージが一覧表示されない場合は、RHEL CD 4 を挿入し、次のコマンドを入力して TFTP サービスをインストールします。  

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom  
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/tftp-server*
```
3. CD-ROM ドライブのマウントを解除します。  

```
# umount /mnt/cdrom
```
4. ドライブから CD を取り出します。
5. /etc/xinetd.d/tftp ファイルを編集して、保存します。  
次のように変更を加えます。
  - -s /tftpboot エントリを -v -s /home/pxeboot に変更します。
  - disable 属性を no に変更します。
6. inetd サーバーを再起動します。  

```
# service xinetd restart
```

## ▼ neopxe ブートサーバーデーモンをインストール および設定する

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。neopxe サーバーは同じシステム上で動作している DHCP サーバーと併用するよう設計されています。

1. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーに neopxe ブートサーバーデーモンをインストールします。

```
# cd /tmp/rhel4u4-pxefiles/neopxe-0.2.0
# ./configure
# make
# make install
```

2. 次のコマンドを入力して、パス /usr/local/sbin/neopxe を rc.local ファイルに追加します。

```
# echo "/usr/local/sbin/neopxe" >> /etc/rc.d/rc.local
```

3. 次のコマンドを入力して、PXE Linux のイメージを /tmp/ ディレクトリからコピーします。

```
# mkdir /home/pxeboot
# cp /tmp/rhel4u4-pxefiles/pxelinux.0 /home/pxeboot
```

4. 次のコマンドを入力して、PXE Linux のイメージを設定します。

```
# mkdir /home/pxeboot/pxelinux.cfg/
# touch /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```

5. 起動時に neopxe が読み取る /usr/local/etc/neopxe.conf 設定ファイルを修正します。

- neopxe.conf ファイルが /usr/local/etc ディレクトリにない場合は、  
/tmp/rhel4u4-pxefiles/neopxe-0.2.0/ ディレクトリからコピーできます。
- 有効な設定ファイルでは、次の各行にエントリが必ず指定されています。service 行が少なくとも 1 行必要です。

```
ip_addr=n.n.n.n
prompt=boot-prompt-string
prompt_timeout=timeout
service=service-number,boot-server,boot-file,label
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- *n.n.n.n* は PXE サーバーの IP アドレスです。
- *boot-prompt-string* は、ネットワークブート中に表示される文字列で、F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを表示するプロンプトです。



- *timeout* は、プロンプトが時間切れになって、サーバーがデフォルトで最初のサービスをブートするまでの時間を秒数で示します。
- *service-number* はブートサービスを識別する番号で、1 ~ 254 の整数で示されます。
- *boot-server* は、サービスをブートするサーバーの IP アドレスです。
- *boot-file* は、`/home/pxeboot` ディレクトリから読み込まれるブートファイルの名前です。
- *label* は、F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを起動したときに表示される文字列です。

次に例を示します。

```
ip_addr=192.168.0.1
prompt=Press [F8] for menu.
prompt_timeout=10
service=1,192.168.0.1,pxelinux.0,Linux
service=2,192.169.0.1,nbp.unknown,Solaris
```

---

**注** - 詳細は、`neopxe.conf` のマニュアルページを参照してください。

---

6. 次のコマンドを入力して `neopxe` デーモンを起動します。

```
# /usr/local/sbin/neopxe
```

## ▼ DHCP サーバーに NFS サービスを設定する

1. 次のコマンドを入力して、NFS サービスパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。

```
# rpm -qa | grep nfs-utils
```

2. NFS サービスパッケージが一覧表示されない場合は、RHEL CD 2 を挿入し、次のコマンドを入力して NFS サービスをインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/nfs-utils-*
```

3. 次のコマンドを入力して CD-ROM ドライブのマウントを解除します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

4. ドライブから CD を取り出します。

5. `/etc/exports` ファイルを編集して次の行を追加します。

```
/home/pxeboot *(no_root_squash,no_subtree_check,insecure)
```

6. 保存してファイルを閉じます。

7. 次のコマンドを入力して NFS サービスを起動します。

```
# service nfs start
```

8. 次のコマンドを入力して、サーバーが常に NFS サービスを起動するように設定します。

```
# chkconfig nfs on
```

```
# chkconfig nfslock on
```

---

**注** – DNS サーバーを使用している場合は、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリで定義されているアドレスの範囲に対して、DNS エントリが存在することを確認してください。DNS サーバーを使用しない場合は、`/etc/hosts` ファイルを修正して、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリに含まれるホストアドレスの範囲を追加します。

---

## ▼ ファイアウォールを無効にする

PXE サーバーとして使用する予定のシステムに RHEL ソフトウェアをインストールしたときにファイアウォールのセキュリティを有効にした場合は、PXE クライアントがサーバーからソフトウェアをダウンロードできるように、次の手順に従ってファイアウォールを無効にする必要があります。

次のコマンドを入力して、ファイルを無効にします。

1. `iptables` サービスを停止します。

```
# service iptables stop
```

2. サーバーの再起動時に `iptables` サービスが起動しないようにします。

```
# chkconfig iptables off
```

---

**注** – `ipchains` サービスがサーバーにインストールされていない場合は、エラーメッセージが表示されることがありますが、このメッセージは無視してかまいません。

---

---

**注** – PXE サーバーとして使用しているシステムでファイアウォール保護を無効にすると、そのサーバー上にあるデータのセキュリティは保証できなくなります。このサーバーがローカルのイントラネット外にネットワーク接続されている場合は、ソフトウェアを PXE クライアントにダウンロードしたあとで、ファイアウォールを再び有効にしてください。

---

---

# RHEL のネットワークからのインストール

ここまでの設定作業を終了したら、次の作業を実行します。

1. PXE/DHCP サーバーをリブートします。
2. [「PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成」\(29 ページ\)](#) を参照してください。

## PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成

ここでは、Preboot Execution Environment (PXE) インストールイメージを、DHCP サーバーとして使用しているサーバーに作成する方法を説明します。これにより、同じサーバーが PXE サーバーとしても機能します。PXE サーバーは、PXE クライアントにオペレーティングシステムファイルを提供します。

### 開始前のご注意

RHEL イメージを PXE サーバーにインストールする前に、PXE イメージをサポートする Linux ネットワークを設定してください。[「RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」\(22 ページ\)](#) を参照してください。

### 必要なアイテム

PXE を使ってインストールするには、次のアイテムが必要です。

- DHCP サーバーにある CD/DVD ドライブ
- RHEL 4 U4 (またはそれ以降の) メディア CD セット ([「アップデートされたメディアキットの入手」\(17 ページ\)](#) を参照)
- ツールとドライバの CD

## ▼ RHEL イメージを PXE サーバーに作成する

1. DHCP/PXE サーバーの CD/DVD ドライブにツールとドライバの CD を挿入します。
2. 次のコマンドを入力して、Sun のサポートファイルを CD から DHCP/PXE サーバーの /tmp ディレクトリにコピーします。

---

**注** - 圧縮 .tar ファイルは、RHEL のバージョンによって異なります。この例では、RHEL 4 U4 64 ビット版を使用しています。圧縮 .tar ファイルのファイル名は rhel4u4-pxefiles.tar.gz です。

---

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/Linux/pxe/rhel4u4-pxefiles.tar.gz /tmp
# cd /tmp
# tar -zxvf rhel4u4-pxefiles.tar.gz
# umount /mnt/cdrom
```

3. 次のコマンドを入力して、RHEL ソフトウェアを格納するディレクトリ構造を設定します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/rhel4u4/
```

---

**注** - 格納先として /home/pxeboot/rhel4u4/ 以外のディレクトリを使用することもできますが、この手順では、このディレクトリを例として使用します。

---

4. 各 RHEL 配布 CD で次のコマンドを入力し、配布 CD の内容を該当する PXE のターゲットサブディレクトリにコピーします。

```
# mount dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/rhel4u4/
# umount /mnt/cdrom
```

---

**注** - 既存ファイルを上書きするかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、「y」と入力して上書きします。RHEL CD の取り出しおよび挿入は、CD/DVD ドライブのマウントが解除されている状態で行ってください。

---

5. 次のコマンドを入力して、kickstart ファイル ks.cfg を PXE サーバーにコピーします。

```
# cp /tmp/rhel4u4-pxefile/ks.cfg /home/pxeboot/rhel4u4/
```

kickstart 設定ファイルには、動作環境に適さない設定が含まれている場合があります。環境に合うように、必要に応じてファイルを修正してください。

6. 次のコマンドを入力して、手順 2 で解凍した PXE ファイルの元の ramdisk を PXE イメージの一番下にコピーします。

```
# cp /tmp/rhel4u4-pxefiles/initrd.img /home/pxeboot/rhel4u4/
```

7. PXE サーバーで、次の kickstart ファイル を編集して保存します。

```
/home/pxeboot/rhel4u4/ks.cfg
```

nfs 行を次のように編集します。

```
nfs --server n.n.n.n --dir /home/pxeboot/rhel4u4/
```

n.n.n.n は PXE サーバーの IP アドレスです。--dir の後ろに指定されている保存場所が、イメージのトップレベルを指していることを確認します。

8. 次のコマンドを入力して、pxelinux.cfg イメージを保存するデフォルトディレクトリを作成します。

```
# mkdir /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```

9. ファイル /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default に次のエントリを追加します。

---

**注** – append から ks.cfg までのテキストブロックは、改行なしの連続する文字列として入力してください。

---

```
default rhel4u4
label rhel4u4
kernel rhel4u4/vmlinuz
append ksdevice=eth0 console=tty0 load_ramdisk=1
initrd=rhel4u4/initrd.img network
ks=nfs:n.n.n.n:/home/pxeboot/rhel4u4/ks.cfg
```

n.n.n.n は PXE サーバーの IP アドレスです。

---

**注** – コンソールベースのインストールの場合は、append 行に console=ttyS0,9600 を追加してください。

---

10. 修正した /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default ファイルを保存します。
11. 各 RHEL 配布 CD で手順 4 を繰り返します。

## RHEL の PXE サーバーからのインストール

ここでは、PXE/DHCP サーバーからブートイメージファイルをダウンロードする要求を発行するように Sun Blade X6250 サーバーモジュールを設定する方法と、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに RHEL のブートイメージをインストールする方法を説明します。

### 開始前のご注意

PXE サーバーから RHEL をインストールするようにサーバーを設定する前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- PXE サーバーに対応するように Linux ネットワークを設定します。「[RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定](#)」(22 ページ)を参照してください。
- Linux PXE サーバーに RHEL イメージをインストールします。「[PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成](#)」(29 ページ)を参照してください。

## ▼ PXE サーバーから RHEL をインストールする

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、PXE クライアントの電源を入れます。

PXE クライアントとは、RHEL ソフトウェアのインストール先の Sun Blade X6250 サーバーモジュールのことです。

2. PXE クライアントでネットワークブートするプロンプトが表示されたら、F12 キーを押します。

PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。

3. プロンプトが表示されたら、F8 キーを押して、PXE ブートイメージのダウンロードを開始します。

4. boot: プロンプトが表示されたら、PXE サーバーに RHEL イメージをインストールしたときにイメージに付けたラベルを入力します。

RHEL インストールイメージが、インストール先の Sun Blade X6250 サーバーモジュールにダウンロードされます。

5. RHEL メディアキットに付属のマニュアルを参照し、使用しているサーバーに合わせて Linux オペレーティングシステムを設定してください。

6. SCSI ドライバをアップデートします。

「[RHEL SCSI ドライバをアップデートする](#)」(33 ページ)を参照してください。

7. オペレーティングシステムファイルを更新します。

[「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」\(33 ページ\)](#) を参照してください。

## ▼ RHEL SCSI ドライバをアップデートする

1. Sun Blade X6250 用のツールとドライバの CD を挿入します。
2. ディレクトリ `/mnt` に CD をマウントし、次のコマンドを入力してドライバをインストールします。

```
# mount dev/cdrom /mnt/cdrom
# cd /mnt/Linux/drivers
# rpm -ivh mptlinux-3.02.83.20-1.rhel4.x86_64.rpm
```

新しいドライバのインストールはこれで完了です。

3. 次のコマンドを入力して CD のマウントを解除します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

4. CD-ROM ドライブからツールとドライバの CD を取り出します。

5. 次のコマンドを入力してサーバーをリブートします。

```
# reboot
```

---

# RHEL オペレーティングシステムの アップデート

ここでは、RHEL オペレーティングシステムのアップデート方法を説明します。

## 開始前のご注意

ソフトウェアは常にアップデートされるため、オペレーティングシステムの最新バージョンが配布メディアに含まれていない場合があります。

次の 2 つの手順は、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに RHEL ソフトウェアがすでにインストールされていることを想定しています。ここでは、最新のオペレーティングシステムで RHEL をアップデートする方法を説明します。

システムが一般アクセスが可能なネットワーク上にある場合は、システムをアップデートするとセキュリティが向上します。

## ▼ RHEL ソフトウェアをアップデートする

ここでは、システムからインターネットにアクセスできることを想定しています。

1. サーバーで `up2date` プログラムをセットアップします。

詳細は、RHEL メディアキットの付属マニュアルを参照してください。

2. `up2date` プログラムを実行します。

`available package updates` (利用できるパッケージアップデート) のセクションでカーネルパッケージを選択します。



## PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定

---

この章では、PXE インストールを実行する前に、ネットワークを事前設定する手順を説明します。

オペレーティングシステムにより、次のセクションに示す手順に従ってください。

- 「RedHat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」(35 ページ)
- 「SUSE Enterprise Linux サーバーの PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」(44 ページ)

---

## RedHat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするための ネットワークの事前設定

このセクションでは、PXE を使ってサーバーに RedHat Enterprise Linux (RHEL) ソフトウェアをインストールする場合に、ネットワークを事前設定する方法を説明します。ここでは、ブート可能なサーバーで RHEL オペレーティングシステムの 1 つのバージョンが動作していることを想定しています。

---

**注** – サーバーパッケージがすでにインストールおよび設定されている場合は、次の手順の一部を省略できます。

---

PXE インストールを行えるようにネットワークを事前設定するには、次のセクションに説明する手順を実行します。

- 「ツールとドライバの CD からのファイルのコピー」 (36 ページ)
- 「DHCP サーバーの設定」 (37 ページ)
- 「portmap のインストール」 (38 ページ)
- 「TFTP サービスの設定」 (39 ページ)
- 「neopxe ブートサーバーデーモンのインストールと設定」 (40 ページ)
- 「NFS サービスの設定」 (42 ページ)
- 「ファイアウォールの無効化」 (51 ページ)

## 必要なアイテム

PXE インストールのためにネットワークを事前設定するには、次のアイテムが必要です。

- 次のデバイスを搭載した RHEL サーバー
- DVD ドライブ
- USB で接続したキーボード
- モニター
- RHEL メディアセット
- ツールとドライバの CD

## ツールとドライバの CD からのファイルのコピー

このセクションでは、PXE の設定に必要な PXE サポートファイルを、ツールとドライバの CD からコピーする方法を説明します。Sun Blade X6250 サーバーモジュールの製品ページからドライバの RPM をダウンロードすることもできます。ダウンロードするには、<http://www.sun.com/servers/> にアクセスしてください。

### ▼ ツールとドライバの CD からファイルをコピーする

1. DHCP/PXE サーバーにツールとドライバの CD を挿入します。
2. 次のコマンドを入力して、PXE サポートファイルをコピーする一時ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /tmp
```

3. 次のコマンドを入力して、ファイルを /tmp/ ディレクトリにコピーします。

---

**注** – 圧縮ファイルは、事前設定する RHEL のバージョンによって異なります。下の手順では、RHEL 4 64 ビットを使用することを想定しており、その場合は `rhel4u4-pxefiles.tar.gz` を使用します。

---

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp /mnt/cdrom/Linux/pxe/rhel4u4-pxefiles.tar.gz /tmp/
```

4. 次のコマンドを入力して、tar ファイルの内容を /tmp/ ディレクトリに解凍します。

```
# cd /tmp
# tar -zxvf rhel4u4-pxefiles.tar.gz
```

必要なファイルをすべて含むディレクトリ /tmp/rhel4u4-pxefiles/ が作成されます。

---

**注** – PXE を使用してシステムに RHEL 4 U3 32 ビット版をインストールする場合は、PXE の kickstart 用 config ファイルを編集して `append` 行にカーネルパラメータ `irqfixup` を追加する必要があります。

---

## DHCP サーバーの設定

DHCP サーバーとして使用するサーバー上で、次の手順を実行します。

### ▼ DHCP サーバーを設定する

1. サーバーに電源を入れ、スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。

```
# rpm -qa | grep dhcp-
```
3. DHCP サーバーパッケージが一覧表示されない場合は、RHEL CD 1 を挿入し、次のコマンドを入力して DHCP サーバーをインストールします。

---

**注** – RHEL 4 の場合は CD 5 を挿入します。

---

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/dhcp-*.rpm
```

4. 次のコマンドを入力して CD-ROM のマウントを解除します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

5. CD-ROM ドライブから CD を取り出します。

6. PXE クライアントから送信した要求に対する応答だけを受信するように、DHCP 設定ファイル (/etc/dhcpd.conf など) を設定します。

次のエントリを 1 行で DHCP 設定ファイルに追加します (詳細は dhcpd.conf のマニュアルページを参照してください)。

```
class "PXE" {match if substring(option vendor-class-identifier,  
0, 9) ="PXEclient"; option vendor-class-identifier "PXEclient"; }
```

---

**注** - サーバーの /etc ディレクトリに dhcpd.conf ファイルがない場合は、/tmp/rhel14u4-pxefiles ディレクトリのサンプル DHCP 設定ファイルから dhcpd.conf ファイルをコピーできます。

---

7. 次のコマンドを入力して DHCP サーバーを起動します。

```
# service dhcpd start
```

8. 次のコマンドを入力して、サーバーが常に DHCP を起動するように設定します。

```
# chkconfig dhcpd on
```

## portmap のインストール

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。

### ▼ portmap をインストールする

1. 次のコマンドを入力して、portmap サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。

```
# rpm -qa | grep portmap
```

2. portmap が一覧表示されない場合は、RHEL CD 2 を挿入し、次のコマンドを入力して portmap サービスをインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/portmap-*
```

3. 次のコマンドを入力して CD-ROM のマウントを解除します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

4. ドライブから CD を取り出します。

## TFTP サービスの設定

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。

### ▼ TFTP サービスを設定する

1. 次のコマンドを入力して、TFTP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。  

```
# rpm -qa | grep tftp-server
```
2. TFTP サーバーパッケージが一覧表示されない場合は、RHEL CD 1 を挿入し、次のコマンドを入力して TFTP サービスをインストールします。

---

注 – RHEL 4 の場合は CD 4 を挿入します。

---

- ```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```
- ```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/tftp-server*
```
3. 次のコマンドを入力して CD-ROM のマウントを解除します。  

```
# umount /mnt/cdrom
```
  4. ドライブから CD を取り出します。
  5. /etc/xinetd.d/tftp ファイルを編集して、保存します。  
次のように変更を加えます。
    - -s /tftpboot エントリを -v -s /home/pxeboot に変更します。
    - disable 属性を no に変更します。
  6. 次のコマンドを入力して inetd サーバーを再起動します。  

```
# service xinetd restart
```

# neopxe ブートサーバーデーモンのインストールと設定

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。neopxe サーバーは同じシステム上で動作している DHCP サーバーと併用するよう設計されています。

## ▼ neopxe ブートサーバーデーモンをインストールおよび設定する

1. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーとして使用しているシステムに neopxe ブートサーバーデーモンをインストールします。

```
# cd /tmp/rhel4u4-pxefiles/neopxe-0.2.0
# ./configure
# make
# make install
```

2. 次のコマンドを入力して、パス `/usr/local/sbin/neopxe` を `rc.local` ファイルに追加します。> 記号は必ず 2 個使ってください。

```
# echo "/usr/local/sbin/neopxe" >> /etc/rc.d/rc.local
```

3. 次のコマンドを入力して、PXE Linux のイメージを `/tmp/` ディレクトリからコピーします。

```
# mkdir /home/pxeboot
# cp /tmp/rhel4u4-pxefiles/pxelinux.0 /home/pxeboot
```

4. 次のコマンドを入力して、PXE Linux のイメージを設定します。

```
# mkdir /home/pxeboot/pxelinux.cfg/
# touch /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```

5. 起動時に neopxe が読み取る `/usr/local/etc/neopxe.conf` 設定ファイルを修正します。

- neopxe.conf ファイルが `/usr/local/etc` ディレクトリにない場合は、`/tmp/rhel4u4-pxefiles/neopxe-0.2.0/` ディレクトリからコピーできます。

- 有効な設定ファイルでは、次の各行にエントリが必ず指定されています。service 行が少なくとも 1 行必要です。

```
ip_addr=n.n.n.n
prompt=boot-prompt-string
prompt_timeout=timeout
service=service-number,boot-server,boot-file,label
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- *n.n.n.n* は PXE サーバーの IP アドレスです。
- *boot-prompt-string* は、ネットワークブート中に表示される文字列で、F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを表示するプロンプトです。
- *timeout* は、プロンプトが時間切れになって、サーバーがデフォルトで最初のサービスをブートするまでの時間を秒数で示します。
- *service-number* はブートサービスを識別する番号で、1 ~ 254 の整数で示されます。
- *boot-server* は、サービスをブートするサーバーの IP アドレスです。
- *boot-file* は、/home/pxeboot ディレクトリから読み込まれるブートファイルの名前です。
- *label* は、F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを起動したときに表示される文字列です。

次に例を示します。

```
ip_addr=192.168.0.1
prompt=Press [F8] for menu.
prompt_timeout=10
service=1,192.168.0.1,pxelinux.0,Linux
service=2,192.169.0.1,nbp.unknown,Solaris
```

---

**注** - 詳細は、neopxe.conf のマニュアルページを参照してください。

---

6. 次のコマンドを入力して neopxe デーモンを起動します。

```
# /usr/local/sbin/neopxe
```

7. 次のコマンドを入力して、NFS サーバーの電源がオンになっていることを確認します。

```
# chkconfig nfslock on
# chkconfig nfs on
```

# NFS サービスの設定

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。

## ▼ NFS サービスを設定する

1. 次のコマンドを入力して、NFS サービスパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。

```
# rpm -qa | grep nfs-utils
```

2. NFS サービスパッケージが一覧表示されない場合は、RHEL CD 1 を挿入し、次のコマンドを入力して NFS サービスをインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/nfs-utils-*
```

3. 次のコマンドを入力して CD-ROM のマウントを解除します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

4. ドライブから CD を取り出します。

5. /etc/exports ファイルに次の行を追加して保存します。

```
/home/pxeboot *(no_root_squash,no_subtree_check,insecure)
```

6. 次のコマンドを入力して NFS サービスを起動します。

```
# service nfs start
```

7. 次のコマンドを入力して、サーバーが常に NFS サービスを起動するように設定します。

```
# chkconfig nfslock on
```

---

**注** – DNS サーバーを使用している場合は、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリで定義されているアドレスの範囲に対して、DNS エントリが存在することを確認してください。DNS サーバーを使用しない場合は、`/etc/hosts` ファイルを修正して、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリに含まれるホストアドレスの範囲を追加します。

---



## ファイアウォールの無効化

PXE サーバーとして使用する予定のシステムに RHEL ソフトウェアをインストールしたときにファイアウォールのセキュリティを有効にした場合は、PXE クライアントがサーバーからソフトウェアをダウンロードできるように、次の手順に従ってファイアウォールを無効にします。

### ▼ ファイアウォールを無効にする

1. 次のコマンドを入力して `ipchains` サービスを停止します。  
`# service ipchains stop`
2. 次のコマンドを入力して `iptables` サービスを停止します。  
`# service iptables stop`
3. 次のコマンドを入力して、サーバーの再起動時に `ipchains` サービスが起動しないようにします。  
`# chkconfig ipchains off`
4. 次のコマンドを入力して、サーバーの再起動時に `iptables` サービスが起動しないようにします。  
`# chkconfig iptables off`

---

**注** - `ipchains` サービスがサーバーにインストールされていない場合は、エラーメッセージが表示されることがありますが、このメッセージは無視してかまいません。

---

---

**注** - PXE サーバーとして使用しているシステムでファイアウォール保護を無効にすると、そのサーバー上にあるデータのセキュリティは保証できなくなります。このサーバーがローカルのイントラネット外にネットワーク接続されている場合は、ソフトウェアを PXE クライアントにダウンロードしたあとで、ファイアウォールを再び有効にしてください。

---

## RHEL のネットワークからのインストール

ここまでの設定作業を終了したら、次の作業を実行します。

## ▼ ネットワークから RHEL をインストールする

1. PXE/DHCP サーバーをリブートします。
2. PXE インストールイメージを作成します (「[PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成](#)」(29 ページ) を参照)。

---

## SUSE Enterprise Linux サーバーの PXE インストールをサポートするための ネットワークの事前設定

このセクションでは、PXE を使って Sun Blade X6250 サーバーモジュールに SUSE Linux Enterprise Server 10 (SLES 10) ソフトウェアをインストールする場合に、ネットワークを事前設定する方法を説明します。ここでは、すでにブート可能なサーバーで SLES9 オペレーティングシステムのいずれかのバージョンが動作していることを前提としています。

---

**注** - サーバーパッケージがすでにインストールおよび設定されている場合は、次の手順の一部を省略できます。UnitedLinux CD を確認するプロンプトが表示される場合があります。

---

PXE インストールのためにネットワークを事前設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- Sun Blade X6250 サーバーモジュールのツールとドライバの CD からのファイルのコピー
- DHCP サーバーの設定
- portmap のインストール
- TFTP サービスの設定
- neopxe ブートサーバーデーモンのインストールと設定
- NFS サービスの設定
- ファイアウォールの無効化

## 必要なアイテム

PXE インストールのためにネットワークを事前設定するには、次のアイテムが必要です。

- 次のデバイスが搭載された SUSE Linux Enterprise Server 10 サーバー
- CD/DVD ドライブ
  - USB で接続したキーボード
  - モニター (省略可)
- SUSE Linux Enterprise Server 10 メディアセット
- Sun Blade X6250 サーバーモジュールのツールとドライバの CD

## ツールとドライバの CD からのファイルのコピー

このセクションでは、PXE の設定に必要な PXE サポートファイルを、ツールとドライバの CD からコピーする方法を説明します。Sun Blade X6250 サーバーモジュールの製品ページからドライバの RPM をダウンロードすることもできます。次のリンクを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/entry/x6250/downloads.jsp>

### ▼ ツールとドライバの CD からファイルをコピーする

1. DHCP/PXE サーバーにツールとドライバの CD を挿入します。
2. 次のコマンドを入力して、PXE サポートファイルをコピーする一時ディレクトリを作成します。  
**# mkdir /tmp**
3. 次のコマンドを入力して、ファイルを /tmp/ ディレクトリにコピーします。  
**# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom**  
**# cp /mnt/cdrom/Linux/pxe/sles10-pxefiles.tar.gz /tmp/**
4. 次のコマンドを入力して、tar ファイルの内容を /tmp/ ディレクトリに解凍します。  
**# tar -zxf /tmp/sles10-pxefiles.tar.gz**  
必要なファイルをすべて含むディレクトリ /tmp/sles10-pxefiles/ が作成されます。
5. 次のコマンドを入力して CD-ROM のマウントを解除します。  
**# umount /mnt/cdrom**
6. ドライブから CD を取り出します。

# DHCP サーバーの設定

DHCP サーバーとして使用するサーバー上で、次の手順を実行します。

## ▼ DHCP サーバーを設定する

1. サーバーに電源を入れ、スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。

```
# rpm -qa | grep dhcp-server
```

3. DHCP サーバーパッケージが一覧表示されない場合は、次のコマンドにより YaST を使用してパッケージをインストールします。

```
# yast -i dhcp-server
```

4. PXEClient 要求だけが PXEClient 応答を受信するように、DHCP 設定ファイル (/etc/dhcpd.conf など) を設定します。

次のエントリを DHCP 設定ファイルに追加します。詳細は、dhcpd.conf のマニュアルページを参照してください。

```
class "PXE" {match if substring(option vendor-class-identifier,  
0, 9) ="PXEClient"; option vendor-class-identifier "PXEClient";  
vendor-option-space PXE; next-server n.n.n.n;}
```

n.n.n.n は PXE サーバーの IP アドレスです。

---

**注** - /tmp/sles10-pxefiles ディレクトリ内のサンプル DHCP 設定ファイルに適宜変更を加えてください。

---

5. /etc/sysconfig/dhcpd ファイルを編集し、DHCPD\_INTERFACE 変数が、PXE サーバーと同じネットワークに設定されているかどうか確認します。

たとえば、Ethernet インタフェース 0 を使用する場合は、DHCPD\_INTERFACE 変数を次のように設定します。

```
DHCPD_INTERFACE="eth0"
```

6. /etc/sysconfig/dhcpd ファイルを編集して、次の各行のエントリを入力します。

```
server-identifier n.n.n.n
subnet n.n.n.n netmask n.n.n.n {
range dynamic-bootp n.n.n.n.n.n.n.n;
option routers n.n.n.n;
option broadcast-address n.n.n.n; }
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- *n.n.n.n* は PXE-DHCP サーバーの各 IP アドレス、subnet、netmask、range dynamic-bootp、option routers、および option broadcast-address です。

次に例を示します。

```
subnet 1.2.3.0 netmask 255.255.255.0 {
range dynamic-bootp 1.2.3.100 1.2.3.200;
option routers 1.2.3.1;
option broadcast-address 1.2.3.255;
}
```

7. 次のコマンドを入力して DHCP サーバーを起動します。

```
# /etc/init.d/dhcpd start
```

## portmap のインストール

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。

### ▼ portmap をインストールする

1. 次のコマンドを入力して、portmap サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。

```
# rpm -qa | grep portmap
```
2. portmap が一覧表示されない場合は、次のコマンドにより YaST を使用してパッケージをインストールします。

```
# yast -i portmap
```

## TFTP サービスの設定

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。

### ▼ TFTP サービスを設定する

1. 次のコマンドを入力して、TFTP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。

```
# rpm -qa | grep tftp
```

2. TFTP サーバーパッケージが一覧表示されない場合は、次のコマンドにより YaST を使用してパッケージをインストールします。

```
# yast -i tftp
```

3. /etc/xinetd.d/tftp ファイルを編集して、保存します。

次のように変更を加えます。

- -s /tftpboot エントリを **-v -s /home/pxeboot** に変更します。
- disable 属性を **no** に変更します。

4. 次のコマンドを入力して inetd サーバーを再起動します。

```
# /etc/init.d/xinetd restart
```

## neopxe ブートサーバーデーモンのインストールと設定

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。neopxe サーバーは同じシステム上で動作している DHCP サーバーと併用するよう設計されています。

### ▼ neopxe ブートサーバーデーモンをインストールおよび設定する

1. コンパイラがサーバーにインストールされていない場合は、次のコマンドを入力し、YaST を使用して gcc をインストールします。

```
# yast -i gcc
```

```
# yast -i make
```

2. 次のコマンドを入力して、DHCP サーバーとして使用しているシステムに neopxe ブートサーバーデーモンをインストールします。

```
# cd /tmp/sles10-pxefiles/neopxe-0.2.0
# ./configure
# make
# make install
```
3. 次のコマンドを入力して、パス /usr/local/sbin/neopxe を rc.local ファイルに追加します。> 記号は必ず 2 個使ってください。

```
# echo "/usr/local/sbin/neopxe" >> /etc/rc.d/boot.local
```
4. 次のコマンドを入力して、PXE Linux のイメージを /tmp/ ディレクトリからコピーします。

```
# mkdir /home/pxeboot
# cp /tmp/sles10-pxefiles/pxelinux.0 /home/pxeboot
```
5. 次のコマンドを入力して、PXE Linux のイメージを設定します。

```
# mkdir /home/pxeboot/pxelinux.cfg/
# touch /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```
6. 起動時に neopxe が読み取る /usr/local/etc/neopxe.conf 設定ファイルを修正します。
  - /usr/local/etc/ ディレクトリがない場合は、次のコマンドを入力して、このディレクトリを作成します。

```
# mkdir /usr/local/etc
```
  - neopxe.conf ファイルは、/tmp/sles10-pxefiles/neopxe-0.2.0/ ディレクトリからコピーできます。
  - 有効な設定ファイルでは、次の各行にエントリが必ず指定されています。service 行が少なくとも 1 行必要です。

```
ip_addr=n.n.n.n
prompt=boot-prompt-string
prompt_timeout=timeout
service=service-number,boot-server,boot-file,label
```

各エントリの内容は次のとおりです。
    - *n.n.n.n* は PXE サーバーの IP アドレスです。
    - *boot-prompt-string* は、ネットワークブート中に表示される文字列で、F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを表示するプロンプトです。
    - *timeout* は、プロンプトが時間切れになって、サーバーがデフォルトで最初のサービスをブートするまでの時間を秒数で示します。

- *service-number* はブートサービスを識別する番号で、1 ~ 254 の整数で示されま  
す。
- *boot-server* は、サービスをブートするサーバーの IP アドレスです。
- *boot-file* は、/home/pxeboot ディレクトリから読み込まれるブートファイルの  
名前です。
- *label* は、F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを起動したときに表示され  
る文字列です。

次に例を示します。

```
ip_addr=192.168.0.1
prompt=Press [F8] for menu.
prompt_timeout=10
service=1,192.168.0.1,pxelinux.0,Linux
service=2,192.169.0.1,nbp.unknown,Solaris
```

---

注 - 詳細は、neopxe.conf のマニュアルページを参照してください。

---

7. 次のコマンドを入力して neopxe デーモンを起動します。

```
# /usr/local/sbin/neopxe
```

## NFS サービスの設定

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。

### ▼ NFS サービスを設定する

1. 次のコマンドを入力して、NFS サービスパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。

```
# rpm -qa | grep nfs-utils
```

2. NFS サービスパッケージが一覧表示されない場合は、次のコマンドにより YaST を使用してパッケージをインストールします。

```
# yast -i nfs-utils
```

3. /etc/exports ファイルを編集して次の行を追加します。

```
/home/pxeboot
*(no_root_squash,no_subtree_check,insecure)
```

4. 保存してファイルを閉じます。



5. 次のコマンドを入力して NFS サービスを起動します。

```
# /etc/init.d/nfsserver start
```

6. 次のコマンドを入力して、サーバーが常に NFS サービスを起動するように設定します。

```
# chkconfig nfslock on
```

```
# chkconfig nfsserver on
```

---

**注** – DNS サーバーを使用している場合は、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリで定義されているアドレスの範囲に対して、DNS エントリが存在することを確認してください。DNS サーバーを使用しない場合は、`/etc/hosts` ファイルを修正して、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリに含まれるホストアドレスの範囲を追加します。

---

## ファイアウォールの無効化

PXE/DHCP サーバーでファイアウォールが有効になっている場合は、クライアントシステムに PXE イメージをインストールする前に、ファイアウォールを無効にする必要があります。

---

**注** – PXE サーバーとして使用しているシステムでファイアウォール保護を無効にすると、そのサーバー上にあるデータのセキュリティは保証できなくなります。このサーバーがローカルのイントラネット外にネットワーク接続されている場合は、ソフトウェアを PXE クライアントにダウンロードしたあとで、ファイアウォールを再び有効にしてください。

---

### ▼ ファイアウォールを無効にする

1. 次の YaST コマンドを実行します。

```
yast
```

2. 「Security & Users (セキュリティとユーザー)」をクリックします。

3. 「Firewall (ファイアウォール)」をクリックします。

- すべてのネットワークインタフェースのファイアウォールを無効にする場合は、「none (設定しない)」を選択します。
- 特定のインタフェースのファイアウォールを有効にする場合は、該当するインタフェースを選択します。



# SUSE Linux Enterprise Server 10 オペレーティングシステムの インストール

---

この章では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに SUSE Linux Enterprise 10 (SLES 10) オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順を説明します。この章で詳しく説明するのは、次の 3 つの場合にサーバーに SLES 10 OS をインストールする方法です。

- ローカル CD-ROM 内の SLES 10 配布 CD からインストールする
- ELOM のリモートコンソールアプリケーションを使用してアクセスするリモート CD-ROM 内の SLES 10 配布 CD からインストールする
- ローカルネットワーク上の PXE サーバーに格納された Preboot Execution Environment (PXE) イメージ、またはネットワーク上に格納されたその他イメージからインストールする

この章には次のセクションがあります。

- 「開始前のご注意」 (54 ページ)
- 「配布メディアからの SLES 10 のインストール」 (56 ページ)
- 「リモートコンソールアプリケーションによる SLES 10 OS のインストール」 (57 ページ)
- 「PXE サーバーでの SLES 10 PXE インストールイメージの作成」 (58 ページ)
- 「PXE サーバーからの SLES 10 のインストール」 (60 ページ)
- 「SLES 10 オペレーティングシステムのアップデート」 (61 ページ)

# 開始前のご注意

このセクションでは、SLES 10 用の参照情報を説明します。

## SUSE Linux のインストールと設定ドキュメント

SLES 10 をサーバーにインストールするときに役立つ情報を表 5-1 に示します。

表 5-1 SLES 10 インストールのリソース

ドキュメント名	説明	入手場所
README ファイル	システム要件およびシステム設定についての最新情報が含まれています。	SLES 10 CD 1 に収録されています。
リリースノート	配布 CD 上の SLES バージョンのリリースに関する最新情報が含まれています。	SLES 10 CD 1 の docu ディレクトリにあります。
<i>SUSE Linux Enterprise Server 10 Start-Up Guide (SUSE Linux Enterprise Server 10 スタートアップガイド)</i>	SLES のインストール手順を簡単に説明したマニュアルです。	ファイル名は startup.pdf で、SLES 10 CD 1 の docu ディレクトリの該当する言語ディレクトリにあります。
<i>SUSE LINUX Enterprise Server 10 Installation and Administration Guide (SUSE LINUX Enterprise Server 10 インストールおよび管理ガイド)</i>	SLES 10 の計画、配備、構成、管理について詳しく説明しています。	ファイル名は sles-admin.pdf で、SLES 10 CD 1 の docu ディレクトリの該当する言語ディレクトリにあります。
SLES 10 サポートサイト	Enterprise Server OS に関する技術情報と製品サポート情報を参照できます。	<a href="http://www.novell.com/products/server/">http://www.novell.com/products/server/</a>

# Sun Installation Assistant

Sun Installation Assistant (SIA) は、サーバーに SLES をインストールする際に役立つ、便利なフロントエンドアプリケーションです。SLES 10 に付属している標準インストールユーティリティと手順を補足するもので、それに代わるものではありません。詳細は、[第 2 章](#)を参照してください。

## SLES 10 インストール方法

次の表で、インストール作業と関連手順を確認します。

インストール作業	参照手順
Sun Installation Assistant を使用してインストールする。	<a href="#">「SIA の使用」 (9 ページ)</a>
ローカルの CD/DVD ドライブから SLES 10 をインストールする。	<a href="#">「配布メディアからの SLES 10 のインストール」 (56 ページ)</a>
リモートコンソールを使用してリモートの CD/DVD ドライブから SLES 10 をインストールする。	<a href="#">「リモートコンソールアプリケーションによる SLES 10 OS のインストール」 (57 ページ)</a>
PXE サーバーから SLES 10 をインストールする。	<a href="#">「PXE サーバーでの SLES 10 PXE インストールイメージの作成」 (58 ページ)</a> および <a href="#">「PXE サーバーからの SLES 10 のインストール」 (60 ページ)</a>
SLES 10 ソフトウェアをアップデートする。	<a href="#">「SLES 10 オペレーティングシステムのアップデート」 (61 ページ)</a>

---

# 配布メディアからの SLES 10 のインストール

SLES 10 には、オペレーティングシステムをインストールおよび設定するための使いやすいグラフィカルインターフェースが用意されています。配布 CD を使用して SLES 10 をインストールする手順は、ローカル CD/DVD ドライブを使用しても、KVMS を介して接続されたりリモート CD/DVD ドライブを使用しても、基本的には同じです。

## 開始前のご注意

まず、次の必要なアイテムがそろっていることを確認してください。

### 必要なアイテム

- 内蔵 DVD-ROM ドライブを搭載した Sun Blade X6250 サーバーモジュール 外部 CD-ROM デバイスも使用できます。サーバーモジュールに次のアイテムが必要です。
- USB で接続したキーボードとマウス
- モニター
- SLES 10 メディアベース CD セットまたは DVD セット
- *SUSE LINUX Enterprise Server 10 Installation and Administration Guide* (*SUSE LINUX Enterprise Server 10 インストールおよび管理ガイド*)

## ▼ 配布メディアから SLES 10 をインストールする

1. システムの電源を入れます。F8 キーを押して、プロンプトが表示されたら CD-ROM を選択します。
2. SLES 10 CD 1 (または DVD) をローカル CD/DVD ドライブに挿入します。
3. 『*SUSE LINUX Enterprise Server 10 Installation and Administration Guide* (SUSE LINUX Enterprise Server 10 インストールおよび管理ガイド)』の手順に従って、システムソフトウェアのインストールを完了します。

---

# リモートコンソールアプリケーションによる SLES 10 OS のインストール

このセクションでは、Embedded LOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに SLES 10 OS をインストールする方法を説明します。

## ▼ リモートコンソールから SLES 10 をインストールする

1. SLES 10 インストール CD/DVD を用意するか、これと同じ ISO イメージを検索します。
2. Embedded LOM サービスプロセッサの WebGUI に接続します。
3. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブ、「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブの順にクリックします。
4. 必要に応じて、マウスモードを「Relative (相対)」モードに変更します。  
詳細は、『*Embedded Lights Out Manager Administration Guide (Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)*』(820-1253) の「Using the Remote Console Application (リモートコンソールアプリケーションの使用)」を参照してください。
5. 「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
6. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックして、JavaRConsole アプリケーションを起動します。
7. JavaRConsole にログインします。
8. キーボードおよびマウスのリダイレクトを開始します。  
「Devices (デバイス)」メニューの「Keyboard(キーボード)」と「Mouse (マウス)」を選択します。
9. CD/DVD のリダイレクトを開始します。  
JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニューから CD をリダイレクトする方法は、次の 2 とおりあります。
  - リモートコンソールの CD-ROM ドライブに実際に CD を挿入する場合は、ドライブに CD を挿入し、「CD-ROM」を選択します。

- リモートコンソールにインストールされている ISO イメージを使用する場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択し、ISO ファイルの場所を指定します。

---

**注** – JavaRConsole から、フロッピーディスクのリダイレクトを行うこともできます。詳細は、『*Embedded Lights Out Manager Administration Guide (Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)*』を参照してください。

---

10. Embedded LOM WebGUI からサーバーの電源を入れます。
11. 次のように BIOS セットアップを行います。
  - a. Ctrl-E キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
  - b. 「Boot (ブート)」メニューをクリックし、「CD/DVD Drives (CD/DVD ドライブ)」を選択します。
  - c. 「AMI Virtual CD (AMI 仮想 CD)」を第 1 ブートデバイスに設定します。
  - d. F10 キーを押して変更を保存し、終了します。
  - e. リブートし、Ctrl-P キーを押して、ブートデバイスとして CD/DVD を選択します。
12. SLES 10 のインストールメニューが表示されたら、矢印キーを使って「Installation (インストール)」を選択し、Enter キーを押します。
13. SLES 10 のインストールを続行します。

---

## PXE サーバーでの SLES 10 PXE インストールイメージの作成

SLES 10 PXE ファイルをインストールするために転送するには、次の作業を行います。

- PXE サーバーで SLES 10 イメージを作成します。
- SLES 10 ソフトウェアをセットアップしてディレクトリにコピーします。
- PXE ファイルをセットアップします。

これで PXE サーバーから SLES 10 をインストールする準備ができました。



## ▼ PXE サーバーで SLES 10 イメージを作成する

1. DVD-ROM ドライブにツールとドライバの CD を挿入します。
2. 次のコマンドを入力して、PXE サポートファイルをツールとドライバの CD から /tmp ディレクトリにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/Linux/pxe/sles10-pxefiles.tar.gz /tmp
# cd /tmp
# tar xzf sles10-pxefiles.tar.gz
# umount /mnt/cdrom
```

## ▼ SLES 10 ソフトウェアをセットアップしてディレクトリにコピーする

ここでは、PXE インストールのための SLES 10 ファイルを格納するディレクトリセットアップを作成する方法を説明します。

---

注 - 格納先として /home/pxeboot/sles10/ 以外のディレクトリを使用することもできますが、この手順では、このディレクトリを例として使用します。

---

1. SLES 10 ソフトウェアを格納するディレクトリ構造を設定します。次のコマンドを入力します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/sles10/CD{1,2,3,4}
```

2. SLES 10 CD 1 をサーバーに挿入し、内容を PXE サーバーにコピーします。次のコマンドを入力します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles10/CD1/
# umount /mnt/cdrom
```

3. サーバーから SLES 10 CD 1 を取り出します。

4. 上の手順を繰り返し、/home/pxeboot/sles10/ の該当ディレクトリに CD 2 ~ CD 4 の内容をそれぞれコピーします。次のコマンドを入力します。

```
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles10/CD2/
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles10/CD3/
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles10/CD4/
```

## ▼ PXE ファイルをセットアップする

1. autoinst.xml ファイルを、/tmp/sles10/ ディレクトリから PXE イメージのルートにコピーします。次のコマンドを入力します。

```
# cp /tmp/sles10/autoinst.xml /home/pxeboot/sles10/
```

2. PXE サーバーで、home/pxeboot/pxelinux.cfg/default ファイルに次のエントリを追加して変更します。

---

**注** - 「append」から「autoinst.xml」までのテキストブロックは、改行なしの一続きの文字列として入力してください。

---

```
default sles10
label sles10
kernel sles10/CD1/boot/x86_64/loader/linux
append textmode=1 initrd=sles10/CD1/boot/x86_64/loader/initrd
install=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/sles10/CD1
autoyast=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/sles10/autoinst.xml
```

3. ファイルを保存します。

---

## PXE サーバーからの SLES 10 のインストール

ここでは、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに SLES 10 ブートイメージをインストールする最終手順を説明します。

### 開始前のご注意

PXE サーバーから SUSE Linux をインストールするようにサーバーを設定する前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- PXE サーバーに対応するように Linux ネットワークを設定します。「[RedHat Enterprise Linux の PXE インストールをサポートするための ネットワークの事前設定](#)」(35 ページ)を参照してください。
- Linux PXE サーバーに SLES 10 イメージをインストールします。「[PXE サーバーでの SLES 10 PXE インストールイメージの作成](#)」(58 ページ)を参照してください。

## ▼ PXE サーバーから SLES 10 をインストールする

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続します。
2. PXE クライアントの電源を入れ、F12 キーを押してネットワークブートを選択します。
3. **boot:** プロンプトで、PXE サーバーに SLES 10 イメージをインストールした際イメージに付けたラベル (前の例では `sles10`) を入力します。

SLES 10 Linux サーバーの設定方法は、SLES 10 CD 1 に収録されている『*SUSE LINUX Enterprise Server 10 Installation and Administration Guide* (SUSE LINUX Enterprise Server 10 インストールおよび管理ガイド)』を参照してください。

4. オンラインアップデートを実行して、オペレーティングシステムのファイルを更新します。

---

## SLES 10 オペレーティングシステムのアップデート

SLES 10 のインストールメディアに収録されているソフトウェアは、最新バージョンの SUSE ソフトウェアでない可能性があります。このメディアのリリース後に、SLES 10 ソフトウェアのアップデートが数多く公開されているので、それらをインストールする必要があります。ここでは、PXE サーバーまたは配布 CD から、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに SUSE オペレーティングシステムソフトウェアをインストールしたあとに、これをアップデートする方法を説明します。

## ▼ SLES 10 オペレーティングシステムをアップデートする

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。

```
# you
```

---

**注** - YaST はテキストモードおよびグラフィカルモードで実行できます。ここで説明する手順は、そのどちらにも当てはまります。

---

3. ファイアウォールを通してインターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使う必要がある場合はまず、YaST に正しいプロキシ情報を設定する必要があります。
  - a. 左側の「Network Services (ネットワークサービス)」タブを選択し、次に右側の「Proxy (プロキシ)」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に正しいプロキシ URL を入力します。

---

**注** – ネットワーク HTTP プロキシサーバー経由でオンラインアップデートサービスを正常に機能させるには、次の追加設定を行う必要があります。

---

- b. YaST ユーティリティを終了し、次のコマンドを入力します。

```
rug set-prefs proxy-url <プロキシ URL>
```

<プロキシ URL> には、ご使用のプロキシサーバーの完全修飾 URL を指定します (例: `http://proxy.yourdomain:3128/`)。
  - c. コマンドが実行されたら YaST を再起動します。
4. Novell カスタマセンターに登録します。左の「Software (ソフトウェア)」タブを選択し、次に「Novell Customer Center Configuration (Novell カスタマセンター登録)」を選択して指示に従います。

あとで、Novell カスタマセンターのユーザー名とパスワード、および SLES 10 のアクティベーションコードが必要になります。
5. 登録したら、「Online Update (オンラインアップデート)」タブを選択して、ソフトウェアアップデートを実行します。

## パート II Sun Blade X6250 サーバーモジュールの オペレーティングシステムインストール ガイド

---

インストールガイドのこの章では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに VMWare および Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールするために必要な情報と方法を説明します。このパートには、次の章があります。

- [第 6 章、VMware のインストール](#)
- [第 7 章、Solaris 10 のインストール](#)

Windows システムをインストールする場合は、『*Sun Blade X6250* サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-2418) を参照してください。



## VMware のインストール

---

この章では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに VMware ESX Server 3 をインストールする方法を説明します。次の 2 とおりのインストール方法を説明します。

- VMware の Web サイトからダウンロードし、ローカルから、またはリモートコンソールを介してリモートからアクセス可能な CD に書き込んだイメージからのインストール。
- Preboot Execution Environment (PXE) ネットワークサーバーに保存されている VMware ソフトウェア (インストールツリー) の自動 kickstart ユーティリティによるインストール。

---

**注** – VMware ESX 3.0.1 では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールの SAS HDD 設定のみがサポートされます。現時点では、Sun Blade X6250 サーバーモジュールの SATA 設定はサポートされていません。

---

この章には次のセクションがあります。

- [「開始前のご注意」 \(66 ページ\)](#)
- [「VMware のインストールと管理ドキュメント」 \(67 ページ\)](#)
- [「VMware ESX Server 3 のインストール要件」 \(67 ページ\)](#)
- [「VMWare ESX Server 3.0.1 ISO イメージのダウンロード」 \(68 ページ\)](#)
- [「CD-ROM からの ESX Server 3 のインストール」 \(68 ページ\)](#)
- [「VMWare ESX Server 3 のアップデート」 \(70 ページ\)](#)

---

# 開始前のご注意

インストールの準備のために、次の作業マップを確認してください。

## VMware ESX Server 3 インストールの作業マップ

次の表で、インストール手順が本書のどのセクションで説明されているかを確認してください。

インストール作業	関連セクション
システムとインストール処理についての情報を収集する。	<a href="#">「VMware のインストールと管理ドキュメント」(67 ページ)</a>
VMware ESX Server 3 のインストール要件を確認する。	<a href="#">「VMware ESX Server 3 のインストール要件」(67 ページ)</a>
ISO イメージファイルをダウンロードして、CD に書き込む。	<a href="#">「VMware ESX Server 3.0.1 ISO イメージをダウンロードする」(68 ページ)</a>
ローカルまたはネットワークに接続された CD または仮想 CD ドライブを使用して、VMware ESX ソフトウェアのインストールを開始する。	<a href="#">「ローカル CD-ROM から ESX Server 3 をインストールする」(68 ページ)</a>
VMWare ESX Server 3 ソフトウェアをアップデートする。	<a href="#">「VMWare ESX Server 3 のアップデート」(70 ページ)</a>



---

# VMware のインストールと管理 ドキュメント

Sun Blade X6250 サーバーモジュールに VMware ESX Server 3.0.1 ソフトウェアをインストールする前に、[http://www.vmware.com/support/pubs/vi\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html) で、VMware ESX Server 3.0.1 のインストールに必要な次のドキュメントを参照してください。

- *Virtual Infrastructure 3 製品の概要*
- *クイックスタートガイド*
- *インストールおよびアップグレードガイド*
- *基本システム管理*
- *Virtual Infrastructure Web Access システム管理者ガイド*
- *サーバ構成ガイド*

PXE インストールを準備するには、VMware Virtual Infrastructure 3 の『インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

---

## VMware ESX Server 3 のインストール 要件

VMware ESX Server 3 およびそれ以降を Sun Blade X6250 サーバーモジュールにインストールする前に、次の要件を確認してください。

- USB キーボードおよびマウスが、Sun Blade X6250 サーバーモジュールの USB ポートに接続されている、または Java リモートコンソールからアクセスできる。
- モニターが Sun Blade X6250 サーバーモジュールに接続されている (Java KVM を使用する場合は不要)。
- 内蔵 CD-ROM がない場合は、次のいずれかを選択します。
  - Sun Blade X6250 サーバーモジュールに USB 接続された外部 DVD/CD-ROM ドライブ。
  - Java リモートコンソールからリダイレクトされた仮想 CD ドライブ (物理ドライブが接続されていない場合のみ)。
- VMware ESX 3 の CD-ROM。

---

# VMWare ESX Server 3.0.1 ISO イメージのダウンロード

VMWare ESX Server 3.0.1 ISO イメージをインストールするには、まずソフトウェアインストール CD の ISO イメージをダウンロードする必要があります。

## ▼ VMware ESX Server 3.0.1 ISO イメージをダウンロードする

ダウンロード元

1. ネットワークに接続された CD 書き込み機能を持つシステムを使用して、次の Web サイトから ISO イメージをダウンロードします。

<http://www.vmware.com/download/vi/eval.html>

2. イメージを CD に書き込みます。

---

**注** – Java リモートコンソールを使用して CD ドライブまたはイメージをリダイレクトする場合は、デバイスとして「Host Device (ホストデバイス)」を選択できます。

---

---

# CD-ROM からの ESX Server 3 のインストール

ここでは、ローカルの CD-ROM または Java コンソールからリダイレクトされた仮想 CD-ROM から VMware ESX Server 3 をインストールする方法を説明します。このインストール手順を続行する前に、「[VMware ESX Server 3 インストールの作業マップ](#)」(66 ページ)を確認してください。

## ▼ ローカル CD-ROM から ESX Server 3 をインストールする

1. CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

---

**注** – CD-ROM ドライブが内蔵されていない場合は、ネットワークに接続された仮想 CD、または USB で接続した CD-ROM ドライブを使用します。

---

2. Sun Blade 6250 システムの電源を入れます。

サーバーが CD から起動し、次の boot プロンプトが表示されます。

boot:

3. 作業するモードを選択します。

- グラフィカルモードにアクセスする場合は、Enter キーを押します。
- テキストモードで操作する場合は、次のように入力します。

**esx text**

4. VMware Infrastructure の『インストールおよびアップグレードガイド』の説明に従って、インストール作業を実行します。

ネットワークに接続されたシステムから、次の Web サイトにアクセスします。

[http://www.vmware.com/support/pubs/vi\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html)

5. Sun Blade X6250 固有のネットワークインタフェースを確認します。

Sun Blade X6250 システムのサービスコンソールウィンドウで、利用可能なネットワーク設定を確認します。

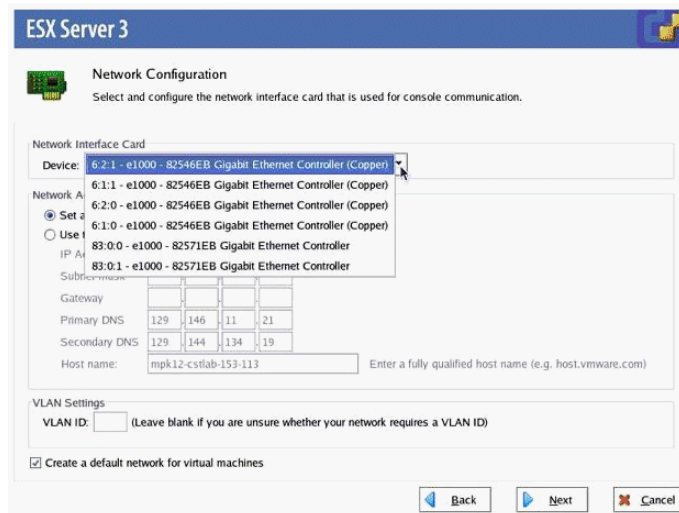


図 6-1 ESX Server 3 の「Network Configuration (ネットワーク設定)」ダイアログボックス

Sun Blade X6250 サーバーモジュールに追加 (オプション) ネットワークコントローラがインストールされていない場合は、ESX Server 3 のインストール中のネットワーク設定画面で、インタフェースは次のアダプタとして表示されます。

```
vmnic0 = "6:2:1 - e1000 - 82546EB Gigabit Ethernet Controller (Copper) "  
vmnic1 = "6:1:1 - e1000 - 82546EB Gigabit Ethernet Controller (Copper) "  
vmnic2 = "6:2:0 - e1000 - 82546EB Gigabit Ethernet Controller (Copper) "  
vmnic3 = "6:1:0 - e1000 - 82546EB Gigabit Ethernet Controller (Copper) "
```

#### 6. VMware のインストールを完了します。

詳細は、Web サイト [http://www.vmware.com/support/pubs/vi\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html) に掲載されている VMware Infrastructure の『インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

---

## VMWare ESX Server 3 のアップデート

アップデート用の VMware ESX Server 3 イメージが公開されると、Web サイトからダウンロードできます (ダウンロードリンクは、<http://www.vmware.com/support/>)。

## Solaris 10 のインストール

---

この章および参照されている Solaris 10 のドキュメントを使用して、Sun Blade X6250 サーバーモジュールに Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) をインストールしてください。この章には次のセクションがあります。

- 「開始前のご注意」 (71 ページ)
- 「Solaris OS をインストールする準備」 (75 ページ)
- 「GRUB 環境でのサーバーのブート」 (77 ページ)
- 「PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート」 (77 ページ)
- 「配布メディアからの Solaris OS のインストール」 (78 ページ)
- 「シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール」 (80 ページ)

---

**注** – サーバーに Solaris 10 OS がプリインストールされている場合は、『*Sun Blade X6250 Server Module Guide For the Preinstalled Solaris 10 Operating System* (Sun Blade X6250 サーバーモジュールのプリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムガイド)』(819-1155) を参照してください。この章では、ネットワークまたはメディアから Solaris 10 OS をインストールする方法のみを説明します。

---

---

### 開始前のご注意

---

**注** – 本書では、「x86」は、Intel の 32 ビットのマイクロプロセッサファミリ、および AMD が製造する 64 ビットおよび 32 ビットの互換マイクロプロセッサを指します。サポートされているシステムについては、「Solaris Hardware Compatibility List (Solaris ハードウェア互換リスト)」を参照してください。

---

Solaris 10 OS のインストールを開始する前に、このセクションをお読みください。

---

**注** - この章は、x86 プラットフォーム上で Solaris OS を使用方法を熟知した経験豊富なシステム管理者を対象としています。

---

## 最低システム要件

表 7-1 に最低システム要件を示します。

表 7-1 最低システム要件

要件	説明
ハードウェア要件	Solaris OS をインストールする前に、サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサの初期設定をしておく必要があります。
Solaris OS の最低バージョン	Sun Blade X6250 サーバーモジュールの場合は、Solaris 10 11/06。Solaris 10 を次の Web サイトからダウンロードするか、メディアを注文できます。 <a href="http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp">http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp</a>
インストールに使用するメモリ	4G バイト ~ 64G バイト。
ディスク容量	12G バイト以上。
スワップ領域	デフォルトのサイズは 512M バイトです。
x86/x64 プロセッサの要件	速度 120M ヘルツ以上の x86/x64 プロセッサ推奨。ハードウェアで浮動小数点を使用できる必要があります。
BIOS	業界標準の x86/x64 BIOS (フラッシュメモリに記録)。BIOS は、CD メディアまたは DVD メディアからブートできる必要があります。

## その他のソフトウェア情報

- ツールとドライバの CD の内容は Web サイトで入手できます。この CD には、アップデートとその他のソフトウェアが含まれています。Solaris 10 バージョンのアップデートとハードウェアの互換性については次の Web サイトのリンクを参照してください。

<http://www.sunsolve.sun.com>

- Solaris 10 OS に付属しているインストール用 CD/DVD メディアやドキュメントには、SPARC プラットフォーム版と x86 プラットフォーム版があります。Sun Blade X6250 サーバーモジュールには、x86 プラットフォーム版を使用してください。

# インストール方法

Sun Blade X6250 サーバーモジュールには、いくつかの方法で Solaris OS をインストールできます。表 7-2 に、インストール方法と関連するセクションまたはドキュメントを示します。

---

**注** – Solaris OS には、広域通信網 (WAN) を経由したブートなど、その他のインストールプログラムも用意されていますが、Sun Blade X6250 サーバーモジュールでは、表 7-2 に記載する方法のみがサポートされています。

---

表 7-2 インストール方法

方法	説明	セクション/ドキュメント
DVD メディアまたは CD-ROM メディアからインストールする。	DVD または CD-ROM メディアに入っている Solaris のインストールプログラムを使用して、表示される手順に従って 1 台のサーバーにインストールします。	<a href="#">「配布メディアからの Solaris OS のインストール」</a> (78 ページ)
PXE を使用してネットワークからインストールする。	リモートの DVD イメージまたは CD イメージからネットワーク経由で Solaris OS をインストールする場合、または JumpStart インストールで処理を自動化して、複数のシステムにインストールする場合は、PXE インストールを実行する必要があります。 PXE を使用してネットワーク経由でブートするには、インストールサーバーと DHCP サーバーをセットアップし、ネットワークからブートする各サーバーで BIOS を設定する必要があります。	PXE インストールの設定を行うには、『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「x86: PXE によるブートに関するガイドライン」の手順に従ってください。 PXE を使ってブートする手順は、『 <a href="#">「PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート」</a> (77 ページ)』を参照してください。
プリインストールイメージからブートする。	設定によっては、Solaris OS のイメージがハードドライブにプリインストールされている場合があります。	Solaris 10 インストールガイド (基本編)
シリアルコンソールからインストールする。	PXE ベースのネットワークインストールでシリアルコンソールを使用して Solaris OS をインストールします。	<a href="#">「シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール」</a> (80 ページ)
ディスクレスブートを実行する。	ハードドライブを使用せずに、Sun Blade X6250 サーバーモジュールで Solaris OS をブートします。この方法は、PXE ベースのネットワークインストールで使用します。	『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「x86: PXE を使用したネットワーク経由のブートとインストールの概要」

## Solaris 10 関連の情報の場所

この章のインストール手順では、いくつかの Solaris OS ドキュメントを参照していません。Solaris OS のドキュメントは、Web サイト (<http://docs.sun.com/>) で入手できます。

Solaris 10 Documentation Collection のドキュメントのリストを表示するには、上のサイトで「Solaris 10」を選択します。

- Solaris 10 のインストールガイドについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1236.5>
- Solaris 10 の管理ガイドについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/47.16>
- システムのアップグレードについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5505>
- トラブルシューティングに関する情報については、次の場所にある「付録 A」を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>

Solaris 10 のドキュメントは、Solaris OS ソフトウェアに付属する Solaris Documentation DVD にも収録されています。

## Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ

表 7-3 に、Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップを示します。この表には、作業、各作業の説明、および関連セクションまたはドキュメントが示してあります。

表 7-3 Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ

タスク	説明	ソース
サーバーをセットアップする。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを設定します。	Sun Blade X6250 サーバーモジュール設置マニュアル (820-2408)
『Sun Blade X6250 サーバーモジュールご使用にあたって』を確認する。	このドキュメントには、Solaris OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	Sun Blade X6250 サーバーモジュールご使用にあたって (820-2423)
システム要件を確認する。	使用するサーバーが最低システム要件を満たしていることを確認します。	表 7-1
Solaris OS のドキュメントを特定する。	ソフトウェアに付属する Solaris OS のドキュメントには、インストールについて知っておく必要のある情報の大部分が記載されています。	「Solaris 10 関連の情報の場所」(74 ページ)



タスク	説明	ソース
Solaris OS をインストールする。	インストール方法を選択し、手順を確認します。	表 7-2
必要に応じて追加のソフトウェアをインストールする。	Solaris OS には Solaris OS ドライバが付属していますが、その他のソフトウェアは、ツールとドライバの CD からインストールする必要があります	Sun Blade X6250 サーバーモジュールご使用にあたって (820-2423)
必要に応じてパッチをインストールする。	パッチは、次の場所にある SunSolve のパッチポータルで入手できます。 <a href="http://www.sunsolve.sun.com">http://www.sunsolve.sun.com</a>	Sun Blade X6250 サーバーモジュールご使用にあたって (820-2423)

## Solaris OS をインストールする準備

Solaris OS をインストールする前に、システムに関する情報を収集しておく必要があります。計画および初期セットアップは、DVD または CD からのローカルインストール、Preboot Execution Environment (PXE) ベースのネットワークインストールのどちらを行うかによって異なります。

また、インストールに使用する適切なメディアを入手してください。

メディア	タイトル
DVD	Solaris 10 OS バージョン <sup>*</sup> DVD
CD-ROM	Solaris 10 OS バージョンソフトウェア CD Solaris 10 バージョン Languages for x86 Platforms CD Sun Blade X6250 サーバーモジュールのツールとドライバの CD
パッチ	パッチについては、『Sun Blade X6250 サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。

\* バージョンをインストールする Solaris オペレーティングシステムのバージョンに置き換えてください。

# インストールの前提条件

Solaris OS をインストールする前に、次の作業を完了しておく必要があります。

1. 使用するシステムが最低システム要件を満たしていることを確認します (表 7-1 を参照)。

Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラを使用する場合は、ローカルの DVD/CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、およびキーボードとモニターが必要です。詳細は、『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』を参照してください。ハードウェアについては、プラットフォーム用の補足ドキュメントを参照してください。

2. Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (基本編)』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-7797>) の第 1 章にあるインストール用のチェックリストを参照してください。

システムがネットワークに接続されていない場合は、インストール先システムのホスト名、およびシステムで使用する予定の言語と地域を知っておく必要があります。

システムがネットワークに接続されている場合は、チェックリストを使用して次の情報を収集します。

- インストール先システムのホスト名
- システムで使用する予定の言語と地域
- ネームサーバの IP アドレス
- サブネットマスク
- ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
- ゲートウェイの IP アドレス
- ドメインネーム
- ネームサーバのホスト名
- ネームサーバの IP アドレス
- ルートパスワード

3. Solaris OS をネットワーク経由でインストールする場合は、Solaris OS をインストールする前に、PXE ベースのネットワークインストールをセットアップする必要があります。

PXE を使って Solaris OS をインストールするための設定を行うには、

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』

(<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) を参照してください。

---

**注** - USB を経由したりリモートインストールの詳細は、使用するプラットフォームに関するドキュメント (Solaris 10 に付属) を参照してください。USB ベースのインストールがサポートされていない場合は、PXE を使用してください。

---

---

## GRUB 環境でのサーバーのブート

Solaris 10 1/06 以降では、Solaris OS を実行する x86 システムに、オープンソースの Grand Unified Bootloader (GRUB) ブートローダが付属しています。GRUB を使うと、システムのメモリにブートアーカイブをロードできます。ブートアーカイブには、システムのブートに必要なカーネルモジュールと設定ファイルが含まれています。GRUB については、`grub(5)` のマニュアルページを参照してください。

GRUB 環境で Solaris 10 を実行している Sun Blade X6250 サーバーモジュールをブートする方法については、次の URL の『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0378>

---

## PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート

『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』も合わせて参照してください。

Sun Blade X6250 サーバーモジュールには、Intel の Preboot Execution Environment (PXE) を使ったネットワーク経由でのブートに必要な PXE の仕様が実装されています。PXE 技術により、サーバーで動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用してネットワーク経由で Solaris OS をブートできるようになります。また、リモートの CD または DVD イメージを使用して Solaris OS をネットワーク経由でインストールすることもできます。さらに、JumpStart シナリオを使ってインストール処理を自動化すると、複数の Sun Blade X6250 サーバーモジュールに Solaris OS をインストールする際に便利です。

PXE では、ネットワークを経由して直接ブートします。そのため、Sun Fire X6250 のクライアントシステムにブートメディアは必要ありません。

## 開始前のご注意

PXE を使用してネットワーク経由でブートするには、まず次の手順を行う必要があります。

- インストールサーバーをセットアップします。
- インストール先に Sun Blade X6250 サーバーモジュールクライアントを追加します。
- DHCP サーバーをセットアップします。

詳細は、次のセクションの手順 1 を参照してください。

### ▼ PXE を使ってサーバーをネットワーク経由でブートする

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』  
(<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) の「PXE によるブートに関するガイドライン」の作業を実行します。

PXE ブートに必要なシステムをすでにセットアップしている場合は、作業マップ (表 7-3) を使用してすべての手順を実行したかどうか確認します。

#### 4. PXE を使ってサーバーをネットワーク経由でブートします。

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』  
(<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) の手順に従い、画面に表示される指示に沿って作業を進めます。

BIOS が起動したら、F12 キーを押して、PXE サーバーからネットワーク経由でブートします。

---

## 配布メディアからの Solaris OS のインストール

CD または DVD を使って Sun Blade X6250 サーバーモジュールに Solaris OS をインストールするには、ここで説明する手順に従います。ここでは、Solaris インストールプログラムを使用した対話式インストールについて説明します。

Solaris 10 OS のインストール用メディアに収録されているプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用するか、コンソールから文字列を入力して実行します。GUI およびコマンドラインインターフェース (CLI) で、インストールウィザードの画面に従って OS をインストールすることができます。

---

**注** – Sun Blade X6250 サーバモジュールには、Solaris 10 OS があらかじめインストールされています。別のバージョンの OS をインストールする場合を除き、ここで説明する手順は必要はありません。

---

## 開始前のご注意

「Solaris OS をインストールする準備」(75 ページ) で説明した作業を行います。

### ▼ 配布メディアから Solaris OS をインストールする

1. システムの電源をオフにしてから再投入してブートします。  
サーバー BIOS が、DVD または CD からブートされます。
2. Solaris 10 OS の DVD または CD を、Sun Blade X6250 サーバモジュールに挿入します。
3. 『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』  
(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0314>)の第 2 章にある「x86: Solaris インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード」の手順に従います。  
手順 4 から始めてください。プロンプトが表示されたら、設定に関する質問に回答しながらインストールを完了します。

画面のデフォルト値をそのまま使用すると、ハードディスク全体のフォーマット、自動レイアウトのファイルシステムの使用、およびすでに選択されている一連のソフトウェアのインストールを実行できます。インストールをカスタマイズして、ハードディスクのレイアウトの変更、Solaris の fdisk のパーティションの変更、およびインストールするソフトウェアの選択を行うこともできます。

---

# シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール

Solaris のテキストインストーラを使用すると、Solaris OS インストールプログラムの指示に従って端末またはコンソールウィンドウ内で情報を入力することができます。シリアルコンソールから PXE を使って、Solaris 10 OS を Sun Blade X6250 サーバーモジュールに ネットワーク経由でインストールする場合は、この手順に従います。

## 開始前のご注意

シリアルコンソールをセットアップする前に、次のシステムを、PXE ベースのネットワークインストールに対応するようにセットアップする必要があります。

- インストールサーバー
- DHCP サーバー

これらのシステムの設定方法は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』 (<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) を参照してください。

## ▼ シリアルコンソールを使って Solaris OS をインストールする

---

**注** – 手順 1 ~ 3 については、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』 (<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) を参照してください。

---

1. 端末をサービスプロセッサのシリアルポートに接続します。  
端末には、VT100、ターミナルエミュレータを実行する PC、またはターミナルサーバーを使用できます。
2. 端末の受信速度を 9600 ボーに設定します。
3. インストール先のサーバーに x86 クライアントを追加し、インストール時に使用するブートデバイスを指定します。  
インストールクライアントのセットアップ時にブートデバイスを指定すると、インストール時に Device Configuration Assistant でこの情報を入力する必要がありません。

この例では、共通の値として次の値を使用します。

- クライアントの MAC アドレス: 00:07:e9:04:4a:bf
- サーバー IP アドレス (GRUB のみ): 192.168.0.123
- クライアントのマクロ名 (GRUB のみ): 01000039FCF2EF
- オペレーティングシステムのバージョン別のコマンドを次の例のように実行します。
- Solaris 10 3/05 システムの場合

```
# cd /export/boot/Solaris_10/Tools
# ./add_install_client -d -e "00:07:e9:04:4a:bf" \
  -b "console=ttya" \
  -b "bootpath=/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@1" i86pc
```
- Solaris 10 1/06 以降 (GRUB ブート) の場合

```
# cd /export/boot/Solaris_10/Tools
# ./add_install_client -d -e "00:07:e9:04:4a:bf" \
  -b "consolatory" i86pc
# datum -A -m 01000039FCF2EF \
  -d ":BootSrvA=192.168.0.123:BootFile=01000039FCF2EF:"
# pntadm -f 01 -A $CLIENT_IP -i 01000039FCF2EF \
  -m 01000039FCF2EF $CLIENT_NET
```

---

**注** – コマンドやオプションの詳細は、各コマンドのマニュアルページを参照してください。

---

4. サービスプロセッサに **Administrator** としてログインします。
5. 次のコマンドを入力して、シリアルコンソールを起動します。

```
start /SP/console
```

6. **Sun Blade X6250** サーバーモジュールをブートします。

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』  
(<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) の手順に従います。  
プロンプトが表示されたら、BIOS で F12 キーを押して PXE からブートします。  
システムがインストールされたら、ログインして `eeprom` コマンドを実行し、`bootenv.rc` を次のように変更します。

```
eeprom input-console=ttya
```





# 索引

---

## D

DHCP サーバーの設定 24

## G

GRUB 環境でのブート 77

## N

neopxe ブートサーバーデーモン  
インストール 40  
設定 26

NFS サービス  
設定 27, 42

## P

portmap、インストール 25, 47

PXE インストール  
RedHat Enterprise Linux 21 ~ 33  
CD からのファイルのコピー 23  
DHCP サーバーの設定 24  
TFTP サービスの設定 25  
neopxe デーモンの設定 26  
NFS サービスの設定 27  
portmap のインストール 25  
PXE インストールイメージの設定 29  
PXE サーバーからインストール 32  
ネットワークの事前設定 22, 35 ~ 44  
ファイアウォールの無効化 28

RedHat Enterprise Linux 用の事前設定 22  
Solaris 10 77 ~ 78  
SUSE Linux Enterprise Server  
ネットワークの事前設定 51

PXE の設定、Sun Installation Assistant 13 ~ 14

PXE ブート 13

## R

RedHat Enterprise Linux  
PXE インストール  
CD からのファイルのコピー 23  
DHCP サーバーの設定 24  
neopxe デーモンの設定 26  
NFS サービスの設定 27  
portmap のインストール 25  
PXE インストールの作成 29  
PXE サーバーからインストール 32  
TFTP サービスの設定 25  
ネットワークの事前設定 22  
ファイアウォールの無効化 28  
PXE インストールの作業マップ 22  
前提条件 18  
ソフトウェアのアップデートまたはパッチ 17  
メディアからインストール 18  
メディアキットの入手 17  
RedHat Enterprise Linux のインストール  
PXE インストール 21 ~ 33  
ネットワークの事前設定 35 ~ 44  
RHEL 33

## S

SLES→「SUSE Linux Enterprise Server」を参照

Solaris 10 のインストール

PXE インストール 77 ~ 78

概要 74

準備作業 75 ~ 76

シリアルコンソールからインストール 80 ~ 81

メディアからインストール 78 ~ 79

Sun Installation Assistant

PXE の設定 13 ~ 14

エラーメッセージ 8

概要 7 ~ 8

使い方 9 ~ 12

ログファイル 8

SUSE Linux Enterprise Server 10 のインストール 54 ~ 61

SUSE Linux Enterprise Server のインストール

PXE インストール、ネットワークの事前設定 44 ~ 51

概要 54 ~ 56

## T

TFTP サービス

設定 39

TFTP サービス、設定 39, 48

TFTP サービスの設定 25

## V

VMware

CD からインストール 68

VMware のインストール 65

CD-ROM から 68

概要 65

作業マップ 66

## Y

YaST ユーティリティ 62

## あ

イメージ 29

インストールの準備作業、Solaris 10 75 ~ 76

エラーメッセージ、Sun Installation Assistant 8

オペレーティングシステムのインストール

RedHat Enterprise Linux 15 ~ 33

Solaris 10 71 ~ 81

インストール方法 73

最低システム要件 72

作業マップ 74

SUSE Linux Enterprise Server 54 ~ 61

概要 1 ~ 3

## さ

作業マップ

RedHat Enterprise Linux PXE インストール 22

VMware インストール 66

シリアルコンソールからインストール、Solaris 10 80 ~ 81

製品のアップデート、Sun Blade X6250 サーバーモジュール xi

設定、NFS サービス 42

設定、TFTP サービス 47

設定、ブートサーバー、48

前提条件

RedHat Enterprise Linux メディアインストール 18

## た

ダウンロード、Wolf サーバーモジュール xi

デーモン、ブートサーバー、設定 40

ドキュメント

Solaris 10 オペレーティングシステム 74

Sun Blade X6220 サーバーモジュール xi

## は

表記上の規則 xiv

ファイアウォール 62

無効化 28

ブート、GRUB 77

ブートサーバー 13

ブートサーバーデーモン 48

プロキシサーバー 62

## ま

メディアからインストール、Solaris 10 78 ~ 79

## ら

リモートコンソールからインストール、RedHat  
Enterprise Linux 19 ~ 21

ログファイル、Sun Installation Assistant 8

